



海神会だより



画 谷川夏樹

練習船「海神丸」

- 2 頁 この4年を振り返って 会長 片岡徹
- 2 頁 令和4年度の学部・研究科の近況報告
海事科学部長・大学院海事科学研究科長 阿部 晃久
- 3 頁 神戸大学120周年記念式典
～ひとりひとりが輝く未来に向けて～
港町・神戸からまだ見ぬ世界へ
海洋政策科学部2回生 佐伯 美喜子
- 3 頁 新しい学部、新しい船練習船「海神丸」での海技士要請
海事科学研究科 助教 小西 宗

特別寄稿

- 5 頁 海洋物理学、新聞記者、そして大学教員
東京大学大気研究所 特任教授 保坂 直樹
- 6 頁 花毛布の歴史と継承 明海大学 上杉 恵美
- 卒業生からの寄稿
- 8 頁 学生生活の思い出と社会人になってから
新菱冷熱工業株式会社 副部長 喜田 敬
- 9 頁 研究者への道
神戸大学医学研究科 学術研究員 廣江葵

ホームカミングディ特集

- 11 頁 第16回ホームカミングディ
広報・社会交流推進委員会 堀田 弘樹
- 12 頁 生涯続く学びと挑戦
株式会社南気象予報士事務所 栗原 めぐみ

- 13 頁 SURVEYOR- 海事鑑定人という職業
一般社団法人日本海事検定協会
代表理事会長 齋藤 威志

実習科修了生より

- 15 頁 マリンエンジニアリングコース
乗船実習科を修了して思うこと
日本郵船株式会社 井上 果咲
- 16 頁 実習を終え、後輩たちに伝えたいこと
日本郵船株式会社 安居 空

集う卒業生たちのコーナー

- 18 頁 *航海科7期生
- *商船大17期生
- 19 頁 *商船大N・E25期生・A5期生
- *関西20期同期会

深江キャンパス 部活動の紹介

- 20～22 頁 オフショアセイリング部、神戸大学体育会ラグビー部、
海事科学部弓道同好会他

イベントコーナー

- 23 頁 新造船「海神丸」見学会 事務局長 池田 隆宏
- 25 頁 伝統を受け継ぎ 献血活動再開 事務局長 池田 隆宏
- 26 頁 令和4年度 総会報告
- 27 頁 ご寄付、役員一覧、物故者、新任・退職の先生方
- 28 頁 卒業生の著作物の紹介 数独パズル
- 28 頁 海神会事務局からのお知らせ



－この4年を振り返って－

海洋政策科学部同窓会 海神会会長 片岡 徹 N18期



平素は、会員の皆さまには、海神会の活動にご支援、ご協力賜りありがとうございます。

新型コロナウイルス禍続く中、卒業式、入学式、同窓会総会等様々なイベントが中止されましたが、2022年4月から対面での授業が再開され、学部内に学生が集い、活気があふれてまいりました。

昨年2022年は、神戸商船大学開学（1952年）以来節目の開学70周年を迎えました。また練習船「深江丸」に代わり海洋探査機能、災害支援機能等を備えた新練習船「海神丸」が就航いたしました。

会長に就任して4年目を迎え、この4年を振り返るとコロナ禍の中、緊急事態宣言等による行動制限が課せられ、十分な活動ができませんでしたが、2021年3月に懸案であった名簿管理の効率化を計り、会員皆様に情報提供の一環として会費納入の確認、会員検索、住所変更等ができるマイページを備えた名簿システムを導入致しました。

活動が制限される中、2022年5月21日学部の協力を得て、新造船「海神丸」の見学会を主催し、関西圏を中心に遠くは九州、関東から3期生を筆頭に2022年3月卒業生（67期）まで67名を頂きました。

また新たな動きとして2022年12月25日神戸大学創立120周年記念式典に合わせ「神戸大学校友会」設立総会が開催され、審議の結果「神戸大学校友会」が発足致しました。概要、経緯は次の通りです。

「卒業生・修了生に関しては新制神戸大学の発足30年目にあたる昭和54（1979）年に、各学部同窓会と相互に補完

し、柔軟な運営を目指す連合体であることを基本理念として、「神戸大学校友会」が発足いたしました。我が同窓会も設立後「神戸大学校友会」の一員となっています。

「神戸大学創立120周年を迎えた令和4（2022）年を機に、これまで校友会が学部同窓会を通じて交流を進めてきた卒業生に加え、未だネットワークされていない卒業生（含留学生）をはじめ、在学生（含院生・留学生）、大学の教職員（含退職教職員）、さらには学生のご家族の方を含めた、神戸大学に関わる近親の関係者（Family）からなる全学的な組織「神戸大学校友会」を立ち上げ、一体となって交流し結束を高め、神戸大学の研究・教育・国際交流・社会貢献活動を「One Kobe Family」として支援し、大学の発展とプレゼンス並びにブランド価値の向上を図ることといたしました。校友会は校友会の1組織となります。

我が同窓会は、現在まで卒業された多種多様な人材が気軽に集える場を提供し、学部生にも身近に感じてもらえることを目標として活動してまいりましたが、今後も変わらず基金を活用し、学部は基より学部生、教員への支援に取り組んでまいりますとともに、校友会・校友会との連携を深め「One Kobe Family」としての活動にも積極的に関与していく必要があると感じております。

大学、学部名は変わりましたが、70年におよぶ海事分野での培われた伝統、文化を受け継ぎ、環境、地球温暖化等新たな分野への挑戦し、皆様が多方面でのご活躍をされますことをお祈り申し上げます。



令和4年度の学部・研究科の近況報告

海洋政策科学部長・海事科学部長・大学院海事科学研究科長 阿部 晃久



1. はじめに

令和4年度の10月において、コロナ感染者数は減少安定を示していることから、感染防止への注意を継続しつつ、3年ぶりにホームカミングデイを対面実施で開催する運びとなりました。私は、令和2年度から部局長を勤めておりますが、この度、初めて対面にてホームカミングデイでOBの皆様へ直接ご挨拶できたことをとても嬉しく思います。卒業生・修了生の皆様には、日頃より本部局の教育、研究、学生活動などに多大なご支援とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。本誌面をおかりして心より感謝御礼申し上げます。また、本年度のホームカミングデイでは、本年4月から新たに運航を開始した海事科学研究科附属練習船海神丸の船内見学と共に、本学部の卒業生のお二方、気象予報士の栗原めぐみ様と日本海事検定協会会長の齋藤威志様をお招きし、興味深いご講演を賜りました。最後に抽選会も行われ、非常に盛況な催しとなりました。ホームカミングデイの部局企画にご尽力いただきました海神会様はじめ本部局の関係の多くの皆様にも感謝申し上げます。

2. 近況報告

令和4年4月から私の研究科長2期目のスタートと共に、神戸大学では藤澤学長の下、第4期中期目標・計画が開始されております。藤澤学長のビジョン「知と人を創る異分野共創研究教育グローバル拠点」として進化・発展し続ける神戸大学の実現へ向けた取り組みが各部局に期待されて

います。本部局としても、「船舶・港湾物流のゼロエミッション」、「海洋再生可能エネルギー」、「海洋環境保全と海洋に係る社会課題の解決」などのキーワードを掲げて、教育研究に邁進し、将来の海事海洋分野をリードする人材の育成と研究推進により、神戸大学の一員として中期目標・計画の達成を目指して前進して参ります。

本部局では、昨年度末に定年等で3名の教員が退職し、その一方で新たに4名の教員が着任しております。その他、海神丸の練習船としての安定的な運航のために大学本部へ求めていた不足船員の補充が2名認められ、少しずつではありますが職場環境の改善が図られています。また、海洋政策科学部が2年目を迎え、4月には206名の優秀な学生が入学し、大学院前期課程には72名、後期課程には9名の入学者がありました。授業については、ほぼ対面での実施が可能となり、完全ではありませんがコロナ禍以前の状況に戻りつつある印象です。

9月22日には、乗船実習科修了式が挙行され、29名（N17、E12）の学生が無事に修了しました。一方、大学院では、前期課程4名、後期課程3名の学位取得者を輩出しました。また、10月には、新たに大学院前期課程6名と後期課程2名の入学者が加わっております。老朽化が著しい深江キャンパスの学舎につきましては、2号館南棟の改修工事が認められ、来年3月末の完工を目指して進められております。

来年の春には、新たな2号館南棟がお目見えすることと思います。深江キャンパスの再開発はまだまだ端緒に過ぎませんが、引き続き深江キャンパスの環境改善の実現へ向けて尽力して参りたいと思います。

海洋政策科学部は2年後に完成年度となり、卒業生が大学院へ進学する時を迎えます。海事海洋分野の専門教育研究を極めるための新たな大学院の中身を検討するため、昨

年度末から研究科長の諮問組織として大学院改組検討WGを立ち上げて、検討作業を進めております。ステークホルダーの皆様からの声に耳を傾けながら、本学部・研究科は今後も海事海洋分野における教育研究で優れた人材の育成と社会貢献を果たして参りますので、同窓会の皆様には変わらぬご支援ご鞭撻を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。



神戸大学創立120周年記念式典（2022年12月25日） ～ひとりひとりが輝く未来に向けて～港町・神戸からまだ見ぬ世界へ！

海洋政策科学部 2回生 佐伯 美喜子 70期（海洋1期）

神戸大学海洋政策科学部2年生の佐伯美喜子です。私は海洋政策科学部の中でも、海技ライセンスコース航海学領域に所属しています。航海士を目指せるコースに所属している私ですが、航海士になった上で、世界で活躍したいという目標があります。しかし、大学に入学してから、広い世界を目指すには今の自分自身の中に持っている世界の広さでは全く足りないということに気付かされるばかりでした。

そこで、私のこれまでの大学生活を振り返ってみようと思います。教養科目の講義では、総合大学の強みでもある他学部の先生方や学生の皆さんとの交流を経て、知見を広げることができました。夏には神戸グローバルチャレンジプログラムにも参加し、オンラインではありましたが国際交流にも挑戦することができました。このような1年生を過ごした私でしたが、2年生になって航海学領域への配属が決まってから、さらに広く深い世界がその先に広がっていたことを知りました。船だけ見ても、様々な技術が集積されており、先人の知恵も多く組み込まれていたことがよく分かります。今まで知らなかった世界に驚かされるばかりでした。また、航海士を目指すにあたって、船や海と直接関わる科目だけでなく、気象学や法律など、幅広い分野を学んでいます。これら多くの分野を学ぶことはもちろん大変なことでしたが、学び続けることでその先に広がっている世界を見たいという思いが強くあり、学ぶことへのモチベーションは下がることはありませんでした。2年生の夏には新しい練習船である海神丸での船舶実習を経験し、台風の中での航海とはなりましたが、唯一無二の経験をす

ることができました。

冒頭にもお話したように、私の夢は航海士になって世界で活躍することです。具体的には「世界を繋ぐ」ことです。航海士は船を動かすことによって船に積んだ様々なモノを運んでいて、運ばれてきたモノは、私たちの生活に豊かさをもたらしめています。さらに、昨今のグローバル社会の中では、思ったより様々なモノが世界中で運ばれており、私たちの生活には欠かせない物流網となっています。また、モノを運ぶ作業自体は、「ただ運んでいる」と思われがちですが、航海士は、モノを船に預けた人・そしてモノを届けた先にいる人の生活を支える仕事だと私は思っています。その責任を感じつつ、世界中を常に繋ぐことに貢献できるような働き方がしたいです。



新しい学部、新しい練習船「海神丸」での海技士養成

海事科学研究科 助教 小西 宗 海事7期（N59期）

2021年4月、神戸大学との統合以来17年半続いた「海事科学部」が改組され、「海洋政策科学部」が設置されました。また、2022年3月、35年にわたり海技士養成を続けた「深江丸」に代わり、「海神丸」が深江キャンパス、ポンドに入港しました。そして2022年4月、海洋政策科学部1期生の領域配属がなされ、新学部、新練習船の下での海技士養成が本格的にスタートしました。海事科学部で実施していた海技士養成は、海洋政策科学部の海技ライセンスコース（航海学領域、機関学領域）へと引き継がれました。実施すべき授業の内容というのは、条約や法律で決められている部分も多くあるため、根本的な部分は大きく変わっていません。今回の学部改組で大きく変わったのは、JMETSでの乗船実習時期です。海事科学部では大学4年間の中で、2年次に1か月、3年次に2か月、4年次に3か月の実習を

行ってきました。これを海洋政策科学部では、3年次に3か月、4年次に3か月の実習実施に変更になりました。3年次の乗船時期は4Qを想定しているため、海洋政策科学部の学生は、2年半以上JMETS練習船に乗船しないまま、海技士の専門科目を学ぶこととなります。そのため、各授業実施内容の工夫や、海神丸の活用が以前に増して重要になりました。

ここからは、私自身が航海学領域の教員であることから、航海学領域を中心に述べていきます。航海学領域2年次は、航海計器や地文航法、天文航法といった航海に関する授業を中心に実施しています。これら座学を行いつつ、これに対応するよう航海学演習という演習科目を行っています。従前は、座学と演習はリンクさせつつも、どこか独立して実施されている印象がありました。そこで航海学演

習では、座学の内容、進捗に応じた演習内容になるよう授業を計画しています。また演習において、座学の知識が現場につながるよう、各シミュレータも活用しています。船舶の運航が全く分からない2年次当初には、360度スクリーンの操船シミュレータで船舶の運航を模擬し、体験してもらったり、航路標識の座学を行えば、その見え方、灯火を操船シミュレータで確認したり、海図図式を教えれば、紙海図で実際に確認した上でECDISシミュレータにおいて紙海図との表示の違いを確認したり、大圏航法の各計算を行えば、自身の結果とECDISの計算結果を比較したり、レー



船橋当直実習の様子

ダーの原理を教えれば、レーダー/ARPAシミュレータでレーダーの調整、操作の演習を行ったりと、座学で終わることなく実機、実物へと繋がる授業展開を意識しています。

新学部となり、学内船舶実習のカリキュラムも大きく変わりました。従前は2年生に2泊3日、3年生に2泊3日、4年生に3泊4日の実習を実施していました。これが新学部では、2年生前期に4泊5日、2年生後期に4泊5日、3年生後期に4泊5日の実習を実施しています。当初のカリキュラムでは、この3回の学内船舶実習すべてがJMETS実習前に実施される予定であったことから、本学において実施している座学、演習と、JMETS実習とをつなぐ架け橋としての役割がより大きくなっています。そして2022年9月、海洋政策科学部1期生の初の学内船舶実習である、「船舶運航概論」の実習を実施しました。1学年を2組に分け、1組目は9月17日～21日、2組目は9月29日～30日に実施しました。航海計画としては、1日目に深江を出港し、明石海峡航路、備讃瀬戸を経て、六島周辺に仮泊。2日目は、抜錨後、三原瀬戸を経由し呉の沖に仮泊。そして3日目に呉に入港。4日目に呉を出港し、5日目に深江に帰港するというものでした。この実習では、船舶運航の基本を体感してもらい、また船内での生活に慣れてもらうことを目的としています。加えて、夜航海はどういうものか、4時間当直に入るといったようなものかを実体験できるよう、プログラムを構築しました。

1日目は、学生が本船に集合し簡単に諸説明を行った後、総員退船部署操練を実施しました。学生にとって初めての操練であるため、当然安全に関する教育を行いつつ、操練とはどのようなものかを体感させました。そして、操練が終わればそのまま出港部署を発令し、深江を出港しました。本来ならば、出港前に部署作業に関する実習を実施すべきですが、一方で初日にこの実習をしてしまうと、航海時間が短くなってしまいます。そのため、出入港作業は別実習を利用しました。海事科学部より月曜の午後は海技実習を実施してきています。これは2、3、4年生の3学年が学年を縦断し、4年生が運航管理、3年生が現場の指揮、2年生が現場の作業を担い、カッターを学生だけで運航する実習です。この海技実習において、今年度よりカッターを運航するというタスクに加え、海神丸の出入港作業というタスクを加えました。実習は複数班で実施しているため、毎週1班ずつ海神丸に配置し、1回目は係留状態のまま、繰り返しSingle upを実施しました。そして2回目に実際に出入港を行いました。この時に、2年生は係留索の取り回しや作業時の立ち位置、安全な姿勢、ウインチの取り扱いなどを学ぶ機会を得ています。また、海技実習の最後には、2年生のみで海神丸の出入港を行い、9月の実習に向けた準備を行っています。

深江出港後、学生は当直に入らず、分団形式で2日目以降に必要な実習などを行いました。1つの班は船内の消防設備配置確認と、射水の実習。そして別の1つの班は、心肺

蘇生に関する実習を行いました。これは、進級後に行っていく消火講習、救命講習へのつながりも念頭に配置したものです。そしてもう1つの班は航海当直要領の説明を行い、各当番について、交代の要領、気象観測の概要を説明しました。海神丸では1班が5～6名で編成されるため、当番は操船と操舵しかなく、他はスペア直で、位置確認や気象観測等の練習を実施することになります。

2日目の航海では各班2時間ずつ入直し、航海当直実習を行いました。操船については教員1名がつきっきりでポイントの解説などを行いました。操舵については、航海学演習において、事前に操船シミュレータ上で練習をしていました。また、海技実習でも実船の操舵体験もしていたため、スムーズに導入できました。そしてスペア直については、前日概要を聞いていた気象観測、特に風の算出ができるよう実習を行いました。この船舶運航概論には、通常の乗組員に加え、航海系の教員が3名以上乗船し、この日中しか動かない2日目を利用し、丁寧に航海当直の基礎を教授しました。また、2日目には機関室当直も実施しました。これは、航海は航海の、機関は機関の実習を中心に実施する一方で、航海士も機関のことは知っておかねばならない、機関士も航海のことを知っていなければならないと考えに基づいてのことです。そのため、機会があるごとに、機関部の協力も得て実施しています。機関の学生が乗船時は反対に船橋でも当直を実施しています。

3日目は呉で1日過ごし、4日目からはいよいよ夜航海を伴う4時間交代の当直です。この日までに実施してきたことを自分たちで出来るようになることに加え、4時間という時間や、昼夜の別を感じ、今後の各授業にも活かしてもらえよう、各当直にて実習を行いました。

今年度が初実施でしたが、1組目は台風の接近により、大幅な行動変更を余儀なくされ（呉抜港など）、台風の風を避けながらの5日間となりました。実際に実習してみて、改善すべき箇所なども見られ、今後、ブラッシュアップする必要がある点も見受けられました。今年度より様々なものが大きく変わり始めましたが、一方で海技士教育では変わらないもの、変えてはいけないものも多くあると感じています。時代や情勢に応じて新しいものはどんどん取り入れつつも、その根幹となるものは諸先輩方からも受け継ぎつつ、これからも海技士教育を続けてまいります。



レーダー/ARPAシミュレータ



1組航跡

2組航跡



射水実習の様子



特別寄稿

海洋物理学、新聞記者、そして大学教員

東京大学大学院新領域創成科学研究科／大気海洋研究所 特任教授 保坂 直紀



「ああ、若いころ海洋物理学をやっておいてよかったなあ」と、つくづく思う。研究者として生きる道は捨てたが、還暦を過ぎたいまも、海洋物理学はわたしを支えてくれている。

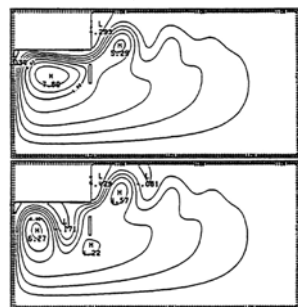
大学院生として海洋物理学の研究者を志していた1980年代前半、いまでは日常用語となっている地球温暖化という言葉も、ごく一部の人が知る専門用語だった。エルニーニョ、ラニーニャといった海水温偏差も、人口に膾炙していたとは言い難かった。

それがいまではどうだろう。テレビのお天気コーナーでも、日本の猛暑、厳冬はラニーニャとともに語られる。海洋プラスチックごみの行方を海洋物理学者が中心となって追い求め、それがニュースになる。海洋物理学の関係している事柄が、ごくふつうに社会の話題に入り込んできている。隔世の感だ。

研究者になるべく修士課程から博士課程に進みながらもその道を離れ、長いこと新聞社の科学記者として科学と社会の両方に関わってきた。研究者からみれば「はみ出し者」ともいえるこのわたしの仕事について、すこしお話ししたい。こんなキャリアパスもあるのだと知っていただければと思う。

■新聞記者になった

東京大学に在籍していたわたしの修士論文のテーマは「黒潮大蛇行と海岸地形効果」。日本南岸を流れる世界最強の海流「黒潮」は、海岸に沿ってほぼ直進する場合と、紀伊半島沖で大きく沖に蛇行する場合がある。黒潮を生み出す太平洋の海上風や海岸地形などの外的条件が同じであっても、その両方の流路が実現しうることを、簡単なモデルを使った数値実験で示したものだ。理論的には、当時、すこしはやっていた「非線形方程式の多重平衡解」を扱ったことになる。



転機は唐突に訪れた。博士課程1年の夏ごろだっただろうか、たまたま何かの手続きで訪れた事務室に置いてあった読売新聞社の入社願書を手に取ると、なんとその日が提出締め切り日。生協協の3分写真で顔写真を撮り、喫茶店で願書を書いて提出した。研究がつまらなかったのではない。むしろ、だんだん面白くなってきていたし、自分は当然、研究者になるものと思っていた。

悩んだのは内定してからだ。どちらの道を歩むべきか。当時、新聞やテレビなどのマスメディアは学生に人気の就職先で、そんなミーハー的な気分も手伝って新聞社を選んだのだろうと、しばらくは思っていた。だが、記者になって何年かを経て実家の本棚をあらためて見てみると、ジャーナリズム系の本がたくさん並んでいた。研究者になろうと思いつきながらも、社会の問題にどっぷりひたると、いってみればサイエンスの研究者とは真逆のこの職業にも、学生時代から興味を抱いていたようだ。



■研究者の目線に近づく

入社は1985年。初任地の仙台では警察担当として事件や事故を取材して記事を書き、3年目になったところで、つくば万博が終わって間もないつくば支局（茨城県つくば市）へ異動した。このときから科学記事を書くようになった。

最初は面食らった。たとえば高エネルギー加速器研究機構での記者会見。クオークのカラー、ルミノシティーなどという聞いたこともない専門用語が飛び交っている。大学院でサイエンスを学んだとはいえ、それはしよせんごくごく狭い領域のこと。まったく歯が立たなかった。それでも記事は書かなければならない。しかも一般の読者にわかるように。科学を社会に伝える「サイエンスライター」とは恐ろしい仕事なのだと実感した。

こういうとき、記者のとり道にはふたつある。ひとつは、研究者ときちんと話ができるように、その分野の勉強を重ねること。もうひとつは、理解できないまま原稿を書き、「これで間違ってますか」と研究者に見せて確認してもらうこと。これは、公表する前の原稿はけっして他に見せてはならないというジャーナリズムのイロハに抵触するが、現実には、そうしている記者もいる。もちろん、苦しいけれど前者を選んだ。

■博士の学位を目指した

東京本社科学部に異動したのは1990年。こうして科学記者の仕事は10年ほど続いていると、とりあえず自分の判断で記事は書けるようになる。だが、この科学ジャーナリズムという仕事は、いま日本の社会のなかでどのような立ち位置にあり、どう社会に役立っているのだろうか。それを知りたくて日本の科学ジャーナリズムに関する研究論文を探してみたが、まったくなかった。

それならば、自分で調べてみるしかないだろう。そう思って、会社には黙って、東京工業大学の博士課程に入学した。ここでも面食らった。若いころ体験した理系の研究と、この文系の研究とは、お作法がまったく違う。ゼミで、何に對してどう発言したらよいかもわからない。この文理の深い溝を身をもって体験できたのが、博士課程で得た最大の収穫だろう。

科学を社会に伝えるこの仕事にとってもうひとつの収穫は、みずから査読論文を書いた経験だ。どんな研究者も、自分で100%満足できる論文など、まず書けない。査読者に指摘されて気の進まぬ修正をしたり、あまりツッコまれない弱い部分が残っている。そのあたりの勘所が、なんとなくわかるようになった。

「論文のこの部分は、ほんとうにこれでいいんですか?」。ただ難しい部分を説明してもらっただけでなく、そういう取材ができるようになった。親しくなった研究者から、「保坂さんの取材は、論文を読んでギリギリのところを攻めてくるので、ほんとうに恐ろしかったですよ」とおほめの言葉もいただけるようになった。

ふつうは3年で終える博士課程が、仕事と二束のわらじで5年4か月もかかってしまった。自分で独学を始めてか



ら足かけ10年ほど。だが、そのおかげで、新聞社を早期退職して今の大学に転出することもできた。新聞社内では博士の学位など何の評価もされなかったが……。

■先輩たちには申し訳ないけれど

若いころわたしが学んだ海洋物理学の中心には地球流体力学があり、もちろん、これは気象学の基礎でもある。これまでに30冊近く一般向けの本を書いたが、そのほとんどは、海洋学と気象学に関するものだ。海洋プラスチックごみ問題のように社会的なテーマのものであれ、海洋学を小学生向けに解説する本であれ、その基礎は、夢中で海洋物理学を学んだあの大学院時代にある。

英国の科学社会学者ハリー・コリンズは、著書『我々みんなが科学の専門家なのか?』（法政大学出版局）のなかで、科学を前進させる学術的な専門知である「貢献的専門知」と並び、「対話的専門知」の重要性を強調している。これは、学術的な知を生み出しはしないが、その道の専門家と対等に語り合える知であって、科学ジャーナリストなどが備えるべき知であるという。この本を読んだのはほんの5年まえだが、海洋物理学との出会いを契機に40年にわたってわたしが追い求めてきたのは、じつはこれだったのだと思う。

2003年に出版した講談社ブルーバックス『謎解き・海洋と大気の物理』に、「わたしを研究者に育てようとしてくれた教員や先輩たちには、申し訳ない気持ちを持ち続けてきた。なにかの形で海洋学のためになる仕事をしたかった」という趣旨のあとがきを書いた。あれから20年を経たいまでも、なんとか恩返ししたいというこの気持ちは変わらない。自分が海洋物理学に出会えたこと、研究者から外れたキャリアパスではあったが、そうしたはみ出し者と温かく付き合ってくれた先輩たちに、いつも感謝している。

略歴：保坂直紀（ほさか・なおき）

1959年生まれ。

東京大学大学院新領域創成科学研究科 / 大気海洋研究所特任教授。

東京大学理学部地球物理学科卒。

同大学院理学系研究科修士課程修了。

1985年読売新聞社入社。

在職中の2010年に東京工業大学大学院社会理工学研究科博士課程修了。博士（学術）。

2013年東京大学海洋アライアンス特任研究員。

2019年から現職。サイエンスライター。気象予報士。



特別寄稿

花毛布の歴史と継承

明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部 上杉 恵美



「花毛布」（別称「飾り毛布」）は、1枚の毛布で花や自然の風景、動物などの形に折って船室に飾る、日本船独自のおもてなしの表現です。

100年以上に渡り洋上で引き継がれてきた花毛布は、船室に華やかさを添えよう、船にあるものを使ってお客様に喜んでもらおう、安全航海の重責を担う船長や運航部員への敬意と思いやりを伝えよう、という船室担当船員の気持ちから生まれました。

2022年春、神戸大学の新造練習船「海神丸」の見学会において花毛布が展示され、訪船された皆様を歓迎したとうかがいました。日本船伝統のおもてなしがこのような機会に活かされたことを、たいへん喜ばしく思います。

本稿では花毛布の歴史とその継承について、私のこれまでの研究活動をもとにお伝えします。

●花毛布の歴史

これまで発見された花毛布のもっとも古い記録は、1901年発行の『郵船図会』で紹介された日本郵船の「春日丸」の客室図です。

この絵図とともに、春日丸の乗船取材をした記者は次のように書いています。



日本郵船豪州航路「春日丸」一等客室（『郵船図会』1901年）
（日本郵船歴史博物館所蔵）

「毎朝給仕は、来たりて室内を清掃し、器物を整頓し、毛布及びタオルは、之を美しき花形に結びて去る、結び方に数種ありて、すこぶる優美なるものなり。」（『郵船図会』pp.12-13）

このことから、花毛布のサービスは1900年頃、日本郵船の外洋客船で始まったと推測されます。

1908年、青森一函館間に青函連絡船「比羅夫丸」が就航し、その特別室の寝台に桜の形に折った毛布が飾られました。青函連絡船で「飾り毛布」と呼ばれた技術は、当時日本郵船から旧国鉄に移籍した船員により伝えられたと思われます。その後青函連絡船では1960年代に至るまで、飾り毛布が上級船室のサービスとして事務部員により提供されていました。

1920年代から1930年代にかけての日本の客船全盛期には、外洋航路と国内航路の船上のさまざまな等級の船室に、花毛布が盛んに飾られていました。

毛布の折り方はマニュアルに残されることはなく、後輩



日本郵船シアトル航路「氷川丸」「日枝丸」
（鉄道博物館提供）

船員が先輩船員の折る様子を見ながら習得し、自らの創意と工夫で形を発展させる、という方法で代々継承されました。

このように、日本船独自の客室サービスとして普及・定着してきた花毛布でしたが、太平洋戦争を境に徐々に衰退していきます。そのおもな理由としては、1. 戦争による日本船の壊滅的な被害、2. 新幹線や飛行機などの交通手段の発達による長距離定期航路の廃止、3. 業務の近代化・効率化の3点が挙げられます。

1970～1980年代の瀬戸内海航路では、関西汽船や名門大洋フェリー、阪九フェリーなどが花毛布のサービスを残していましたが、それも徐々になくなっていきました。

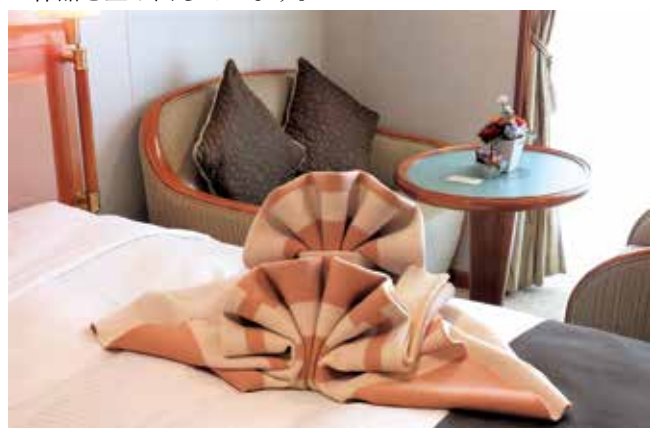
一方、花毛布は客船以外の船舶にも伝わりました。

戦後設立された航海訓練所（現（独）海技教育機構）の練習船でも、上級士官の居室に花毛布が飾られてきました。日本海洋事業が運航する海洋調査船では、親会社である日本水産から移ってきた船員が、かつて南氷洋の捕鯨母船や北洋サケマス母船に乗船していた際に習得した花毛布の技術を伝え、上級士官や主任研究員の居室に飾りました。現在ではその機会は減りましたが、船の一般公開や新任船員の着任時などに、歓迎の意を表す花毛布が飾られることがあります。

●花毛布の現在

現在、花毛布をおもてなしとして提供している船は、ごく限られています。そのうちのいくつかを紹介します。

戦前・戦後の海運界の厳しい再編の中で、一貫して花毛布の伝統を守り続けているのが、商船三井客船です。国際見本市船をチャータークルーズ船に改造して運航した「新さくら丸」（1981年～1999年）や、2代目「にっぽん丸」（1976～1990）、日本初の本格的なクルーズ客船として建造された「ふじ丸」（1989年～2001年、2002年日本チャータークルーズへ移籍）では、各室に置かれた花毛布が多く、船客たちを楽しませていました。同社が現在運航している3代目「にっぽん丸」でもこの伝統が継承され、スイートルームとデラックスルームに華やかさと温かみを添えています。にっぽん丸の花毛布は、毛布に織り込まれたデザインや色合いを活かして、客船らしくゴージャスな雰囲気仕上げるのが特徴です。同船では、ベテランの日本人クルーがフィリピン人クルーに毛布の折り方を伝授し、フィリピン人クルーはそれにアレンジを加えながら、常に新しい作品を生み出しています。



商船三井客船「にっぽん丸」デラックスルーム

2021年から2022年にかけて行われた「にっぽん丸就航30周年記念クルーズ」では、船内イベントのひとつとして「花毛布講座」が開催されました。私は講師として登壇させていただき、客室担当クルーの皆さんが花毛布の実演を行いました。普段は表舞台に出ることのないクルーの皆さんは、花毛布の折り手としてお客様の目の前で作品を披露し拍手を受けたことで、仕事のやりがいを感じ今後の励みになったとのことでした。

鹿児島～奄美群島～沖縄各島間の旅客貨物輸送を担って

いるマルエーフェリーでは、1960年代から花毛布が飾られてきました。川崎汽船勤務時代に花毛布の技術を習得した元事務部員がマルエーフェリーに移籍後、このおもてなしを始めました。1970～1990年代には、特等客室と船長室・士官室に花毛布を飾る他、船内イベントとして琉球舞踊や手品とともに「花毛布教室」が開催されたそうです。

マルエーフェリーの花毛布は、会社のシンボルマークである丸で囲んだ「A」と3本の赤いラインを活かした作品が多いのが特徴です。現在「フェリーあけぼの」と「フェリー波之上」では、OBから受け継がれた花毛布が上級船室に華やかな雰囲気を加えています。



「フェリーあけぼの」特等室

マルエーフェリーのグループ会社である奄美海運の「フェリーあまみ」「フェリーきかい」でも、喜界島出身の司厨長が一等室に花毛布を飾っています。地元愛が盛り込まれた「桜島と錦江湾」などのオリジナル作品も生まれています。

●花毛布の継承活動

明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部の上杉ゼミでは、「日本伝統のおもてなし」の良さを再発見する体験実習を授業に組み入れています。実習を通して若い世代に日本船の伝統技術を習得する機会を提供し、花毛布を継承してもらうことが狙いです。

実習では元事務部員が講師を務め、毛布の折り方の基礎から応用まで、身振り手振りを交えて丁寧に指導します。ほとんどの学生たちは初めて目にする花毛布に新鮮な驚きを感じながら、毛布を折る練習に熱心に取り組んでいます。

この実習の成果は、学外でも発揮されています。2016年6月には横浜みなとみらいの「帆船日本丸」（2017年国の重要文化財に指定）において、学生たちが花毛布の展示リニューアルを行いました。学生たちは自主練習を重ねたのち、「帆船日本丸」の船長室や航海士室など9室にそれぞれの担当作品を展示しました。この展示活動は定期的に継続され、コロナ禍で2年半ほど中断がありましたが、2022年7月に再開しました。

上杉ゼミではこれからも花毛布の実習を通して、若い世代に日本船の伝統を伝えていきます。学生たちが将来、習得した花毛布の技術やおもてなしの精神を活用する機会を期待しています。



帆船日本丸 三等航海士室



新菱冷熱工業株式会社 燃料エネルギー事業部 副部長 喜田 敬 31期 (A11期)



ここ数年、会社の新卒採用活動の一環でOBとして深江キャンパスをたびたび訪問していましたが、2022年3月に体育館で開催された企業合同説明会に初参加した際、事務局の方から声を掛けられ、初めて海神会のことを知りました。

転勤が多い会社人生で、一時、神戸に来る機会もめっきり少なくなり、転居を重ねていたことから、いつぞや「海神会」からの連絡も途絶え、同窓会とも疎遠になり少し寂しく思っていましたので、深江の同窓会「海神会」の存在を知って大変うれしく思いました。

事務局の方から、「海神会だより」の寄稿を打診され、少し迷いましたが母校同窓会発展のためにはと思い、自分自身の人生の棚卸の意味も含め、お引き受けすることにしました。以下、つたなくて面白みのない還暦目前のオヤジの半生記ですが、最後までお読みいただければ幸いです。

私は、昭和57年(1982年)4月に神戸商船大学原子動力学科11期生として入学しました。原子動力学科とは、あの原子力船「むつ」で乗船実習を行い、原子力の知識を持った船舶職員の養成を目的として設立されたと聞いていましたが、原子力船「むつ」はまさしく世間の荒波の中を漂流する憂き目にあい、そのあおりで1期生から乗船実習もままなくなりました。

在学中「銀河丸」「北斗丸」といった汽船で短期乗船実習を履修しましたが、授業では「内燃機関」や「タービン」といった機械工学と平行して、3回生以降では、「原子炉工学」「放射線管理」といった原子力工学関連科目も必須であったため、ほとんど毎日の授業終了が17時という忙しい学生生活でした。

ただ、当時ほぼ全寮制であった白鷗寮では、縦割り4人部屋という今では考えられない日常生活環境の中、辛いこともありながらも仲間とともに、楽しいかけがえのない日々を過ごし、5年間の学生生活はあっという間に過ぎ去りました。

卒業した昭和62年度(1987年)当時の就職活動は今とは違い、企業各社からの求人票をもとに教授から就職先を推薦されるシステムでした。

就職活動時期が、ちょうど急激な円高で、海運業界をはじめ全業界において採用を抑制しており、活動には少し苦労しましたが、8月の暑い中、白い略服に制帽のいでたちの効果か、東京本社での最終面接をクリアし、現在も在籍している建築設備系のサブコンに縁があって就職することができました。

ただ、教授に進められるがまま受験した会社だったので、業務内容どころか社名についても予備知識がなく、入社してからいろいろOJTでの勉強となりました。しかしながら、会社には先輩方も多数おられ、活躍されていました。

海運業界でなくても商船大学卒業生が活躍できる理由として以下があげられると思います。まずは、学生時代の寮生活で気力と体力が養われていることです。少々の理不尽さにも屈することなく、困難に対応しそれを乗り越えられる精神力を身につけているのではないのでしょうか？加えて、在学中は、先に書きましたように、そこそこ広く浅くまじめに勉強しているので、どのような分野の仕事に対しても応用力があるのだと思います。

この二点が、企業で重宝される大きな理由ではないでしょうか。

話を元に戻しますと、昭和62年度(1987年)4月に晴れて社会人になり会社の研修がスタートしました。

最初の1ヶ月間は、オリエンテーションを兼ねた集合教育でしたが、新入社員は一年間全寮制で、入社早々、2泊3日の自衛隊研修もあり、大学に入学した時と似たような境遇に苦笑いしたものでした。しかしながら、入社後30年以上経過した今でも同期入社との絆は強く、全寮制の良さを二回も知る結果となりました。

1ヶ月の集合教育が終了し、ゴールデンウィーク明けには、東京駅で同期の涙に見送られ、配属先へ赴任しました。最初の配属先は、なんと神戸でした。弊社は全国展開の会社ながら、社員の半数は関東圏に在籍しているのですが、出身学部を考慮した結果であろう、原子力関係業務に従事することになり、その拠点が神戸だったのです。神戸の研修寮は、阪神甲子園駅近くにあり、同期4名で新たな共同生活が始まりました。

当時は、阪神タイガースに「伝説の三連発」を放ったバース、掛布、岡田がまだ在籍しており、会社から戻って寮にいと、寮まで大きな歓声が聞こえていました。

このように、慣れ親しんだ神戸に配属となり、毎日、意気揚々と業務に励んでいたのですが、入社後3年目の転勤から今日まで、多種多様な業務と赴任地を与えられ、その場面場面で波乱万丈の会社人生を送ってきました。

会社の本業である、建築設備に関する業務に従事したことは皆無で、構造や配管関係の設計、石油化学プラント工場の現場監督、全自動植物工場の設計施工、そして、畑違いの営業に転向して沖縄営業所長、最近では広報部も経験しました。



転勤人生最初の地長崎

転勤に伴い、いくつもの街にも移り住みました。長崎を皮切りに、横浜、仙台、沖縄、都内など引越し回数は現在までに17回を数えます。

2～3年に一度引越している計算になります。

同じ会社において、こんなにも次から次に新たな経験をさせてくれる会社はそうないのではないかと思います。

冒頭書きましたように、商船大学卒業生の忍耐強い気質を会社に見抜かれていたのかもしれません。

仕事の重圧に耐えきれなくなりそうなきも時々ありましたが、そのような時も家族、その時々の上司、仲間に支えられて乗り越えることができました。

転勤は非常に労力を要しますが、その土地土地になじむことができれば、楽しみでもあります。また、これも運がいいというか、オフィスがいつも海のそばで、最近のビル

は窓が開かないので潮風は感じられませんが、海を眺めていると非常に心が落ち着きます。

今の事務所からは横浜港がよく見え、仕事をしていても短三声の汽笛が聞こえると、窓際に行って、気分転換に船の出港を見送ったりしています。

各地での思い出は枚挙にいとまがないですが、いくつか挙げてみます。

まずは、最初の転勤先の長崎です。神戸から新幹線と特急を乗り継いで着いた長崎駅はその先に線路はなく、西の果てまで来てしまったという絶望感が正直な第一印象でしたが、風光明媚なきれいな街並みで、大学の体育の授業で少しかじったヨットをこの地で本格的に始め、4年半の在任期間中、毎年ゴールデンウィークは済州島や釜山からのレースに参加したり、五島列島などへのクルージングを楽しみました。

長崎で最大の出来事は女房と、出会ったことです。その場所は、竣工直前の機装中の「クリスタルハーモニー（＝現在の飛鳥Ⅱ）」の船上でした。勢いで新婚旅行は、アラスカクルージングに行ってきました。

もうひとつ、那覇への転勤は神奈川県からでした。本土⇄沖縄の物資は基本、海上輸送なので、自宅から搬出した家財道具はすべて東京港でコンテナに積み替えられ、一週間の要します。ちなみに私達家族の荷物は10 f tコンテナ3個でした。

青い海、青い空は、まだ小さかった子供達の情緒教育に



沖縄勤務時代の久米島沖

は最高で、私も本格的な外洋ヨットレースを楽しみました。食べるものもすべて美味しかったです。ただし、日本語が通じる外国と思っておけば腑に落ちるくらい、文化や生活習慣は大きな違いがありました。慣れてしまえばこっちのものです、逆に慣れすぎると、離沖の際に社会復帰ができないという話を私の身の回りでもよく聞きました。

7年半の勤務を終え、2012年10月にやっと横浜へ帰任したのちも転勤は続き、ここ最近は錦糸町や野毛の借り上げ社宅に住んでいます。

皆さん驚かれますが、子供の教育環境を気にする必要性がなければ、街のど真ん中に住むことほど便利で快適なことはありません。

通勤は徒歩10分、休みの日は、女房と横浜港、山下公園あたりを散策し、いろいろなおいしいお店を探検しています。つい最近、フランスおでんの立ち飲み屋に行きました。

江の島界限でデイクルージングをすることもあります。

定年が65歳まで延長となったので、まだもう数回、転勤があるかと思いますが、それぞれの街を楽しみながら今後も仕事に励みたいと思います。



事務所からの横浜港



今の住まいの近所、横浜野毛



逗子沖セーリング

卒業生からの寄稿 研究者への道

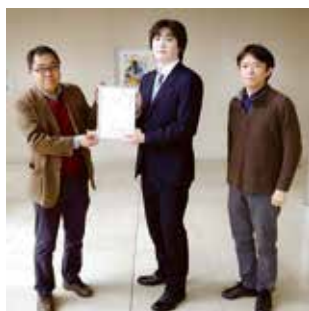
神戸大学大学院医学研究科地域社会医学・健康科学講座 AI・デジタルヘルス科学分野
学術研究員 廣江 葵 61期（海事9期）



1. はじめに

- 感謝

2022年3月、神戸大学海洋政策科学部（海事科学部）同窓会 海神会様より海神会賞を頂戴し、誠に光栄に思います。私は学部4年生の頃にヒューマンインタフェース研究室に配属されてから、視線計測システムに関する研究に取り組んできました。そこから博士前期（修士）課程、博士後期（博士）課程に進学し、「眼球の光軸周辺の顕著性マップを用いた視線計測装置のインプリシットキャリブレーション手法」の論文を昨年（2022年）投稿しました。その論文がヒューマンインタフェース

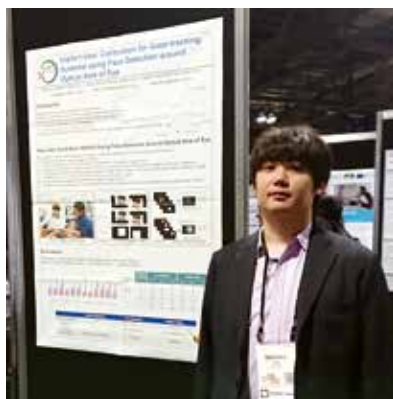


海神会賞授与式

学会にて若手卓越研究賞と学会論文賞を受賞したことを評価され、海神会賞をいただくに至りました。心より感謝申し上げます。

- 入学時の目標

入学当初はエンジンや造船に関わる工学を海事科学部で学び、将来は機械メーカーのエンジニアや機関士になることを目指していました。1年生時のタービンエンジンの練習船大成丸でのJMETS船舶実習は今でも昨日のことに思い出せる貴重な体験でした。一方、学部での授業では幅広い範囲の物理学・工学について学ぶことができましたが、自分の中では情報工学系の授業がほとんど無いことに少し物足りなさを感じていました。そこで学部の4年生時の研究室配属でヒューマンインタフェース研究室を希望するに至りました。この研究室で長松先生に指導していただき、卒業研究は車載用の広範囲視線計測装置の研究を行いました。大学院からは視線計測装置のキャリブレーション



を自動化する研究を行い、国際学会での研究発表も行いました(左図 CHI2019でのポスター発表)。その時に研究者は世界中で自分だけが知っていることを見つたり作ったりできるということを実感し、研究を続けて行きたい、研究者を目指したいと思うようになりました。

2. 研究内容

ヒューマンインタフェースとは、ヒトとコンピュータの間に出入力装置のことを言います。主な例としてはパソコンのディスプレイやキーボード、スピーカ等が挙げられます。私はその中でも視線インタフェースに関する研究を行っています。

近年では、スマートフォンやスピーカーに話しかけるだけで、調べ物をしてくれたり、家電を操作できたりできるようになってきました。でも、話しかけるよりも見つめるだけで操作ができたりするともっと快適になると思いませんか？

「目は口ほどに物を言う」という言葉がありますが、視線からさまざまな情報を得ようとする研究が行われています。目の動きから感情や脳の反応を推定することによる心理学やマーケティングの研究が行われたり、VRデバイスなどで視線を使ったエンタテインメントも開発されたりしています。

このように次世代のインタフェースとして期待されている視線計測システムですが、いくつか課題が残されています。その課題の一つにユーザキャリブレーションがあります。精度の高い視線計測を実現しようとすると、システムを使用する前に眼の個人差を求めて、その人に最適な計測を行えるようにする必要があります、この個人差を求めることをユーザキャリブレーションと言います。いつも使用する人が決まっている装置ではそれでもいいのですが、運転者が交代する自動車での利用や、街中の人々の視線を計測する等の不特定多数の人の視線を計測しようとすると、このキャリブレーションが大きな課題になってきます。

私は、このキャリブレーションを気付かないうちに自動的に行えるようにすることで視線計測装置をより広い範囲で活用できるようにする研究を行っています。今回投稿した「眼球の光軸周辺の顕著性マップを用いた視線計測装置のインプリシットキャリブレーション手法」の内容について説明します。

本研究はカメラ2台と赤外線光源2基を使った3Dモデルベースの視線計測装置におけるユーザキャリブレーションをインプリシットに(意図的に注視すること無しで)行えるようにすることを目的としています。3Dモデルベースの視線計測装置では、カメラ2台で眼球を撮影し、撮影された画像から瞳孔の位置と角膜(黒目)上で反射した赤外線光源の像の位置を使って視線を推定しています。この時、瞳孔の位置と角膜の中心の位置から眼球の光軸が求められるのですが、ヒトの視線(瞳孔と中心窩を結ぶ軸)と光軸の間にはズレが存在します。ユーザキャリブレーションによってこのズレを計算するのですが、通常は画面上に映された点を意図的に注視してもらう必要があります。このような事前手続きを無くすことができれば、街中などの人々の自然

な状態での視線を計測したり、説明を理解してもらうことが難しい子供や動物の視線も計測したりできるようになると考えられます。本研究では画面上に写っている情報から見ている可能性が高い点を推定することによって、意図的に注視する点の代わりに計算に使用するという方法を新たに提案しました。

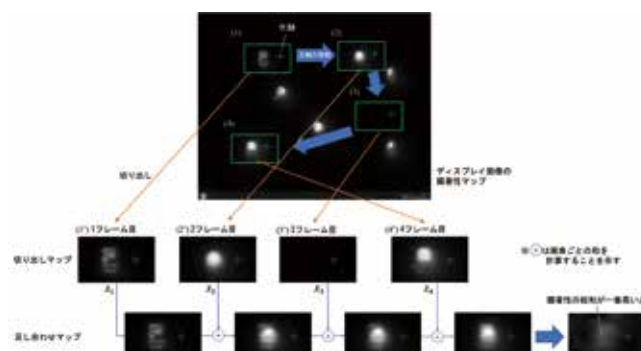
見ている可能性が高い点の推定には、画像処理手法の一つである顕著性マップを使用しました。顕著性マップは画像の中で目立つ(顕著な)ものを推定する手法で、画像内の輝度や色等の特徴量から顕著性が高い場所を推定することができます。しかし画像特徴量だけを基にした顕著性マップは画像に映っているモノの意味が反映されておらず、目立つ色の物などしか推定することができませんでした。そこで本研究では最新の機械学習を取り入れた顕著性マップを用いることにしました。実際の人の視線データを学習して、画像内の顕著性を求めることで、画像特徴量では目立っていても、人の顔や動物などのヒトが注目する可能性が高いものを推定することができます(図 saliency mapの生成例)。このように顕著性マップを使って見ている可能性が高いものを推定し、光軸との位置関係を何セットも集めて平均化することで、個人差を求めることが可能になりました(図 光軸周辺の顕著性マップの足し合わせ)。評価実験の結果は、1点キャリブレーション(意図的な注視を伴う)で計測誤差が平均1.25度、提案した手法では約1.54度となり、ユーザが自由に画面を見ている間に自動的に視線を計測できるシステムを提案することができました。今後はより精度を上げることや、キャリブレーションにかかる時間を短縮する方法を研究します。

3. 今後の目標

現在(2022年度)、私は神戸大学大学院医学研究科地域社会医学・健康科学講座 AI・デジタルヘルス科学分野の学術研究員をしています。ここでは、神戸市の国民健康保険のデータを機械学習させることで、その人が将来的に要介護になるかどうかのリスクを予測するAIの研究・開発を行っています。今まで行っていた視線計測装置の研究とは異なる分野の研究課題ですが、今までの研究で培ってきた知識・経験を生かして研究に従事しています。社会貢献に直結するような研究課題で非常にやりがいを感じています。

また、2023年度からは大阪成蹊大学に新設されるデータサイエンス学部の助教になることが決まっています。学生にプログラミングやデータサイエンスの基礎を教えることを通じて、研究・開発の楽しさを伝えることができればいいと思っています。

学生の皆さん、学生生活の中で研究や部活動など様々なことを体験し打ち込みたいと思えるものをじっくり探してください。



(a) 元画像



(b) Itti



(c) UNISAL



(d) MSI-Net



(e) DeepGazeII



第16回神戸大学 海事科学部・海洋政策科学部 ホームカミングデイ

神戸大学 海事科学部・海洋政策科学部 広報・社会交流推進委員会 堀田 弘樹

秋晴れの候、2022年10月29日開催のホームカミングデイは、コロナウイルス感染のレベルが緩和され、対面の授業も始まったことから、対面とオンライン併用し開催致しました。併せて、新造船「海神丸」が就航したことから、午前中にその見学会を開催致しました。

今回は、「生涯続く学びと挑戦」と題し気象予報士栗原めぐみ氏 50期（BP12期）と「SURVEYOR(海事鑑定人)」という職業」と題し一般社団法人日本海事検定協会齋藤威志（N29期）にご講演を頂き好評を博しました。閉会后、海神会 片岡徹会長のあいさつにつづき、神戸大学グッズ等が当たる抽選会が行われました。

海神丸の見学会の開催と、講演者が若かったことが功を奏し、30歳代から80歳代まで幅広い年齢層の卒業生が参加し、教職員を含め六十余名が出席しました。

毎年、案内状は卒業10周年単位で（10～60周年）（神戸商船大学含む）で郵送しています。次年度もよろしくお願い致します。



記念品



会食（左から阿部研究科長 講演者齋藤 栗原 片岡会長）



学生スタッフ



全員集合



海神会片岡会長挨拶



抽選会の賞品



海神丸 見学会へ向かう

ちなみに1等賞の清酒「神のまにまに」のゲットは20期生の2名でした。
学生スタッフの皆さん「海神丸」見学会から最後の抽選会までお手伝いご苦労様でした。

株式会社南気象予報士事務所 栗原 めぐみ 50期 (BP12期)



平成17年(2005年)3月に海事科学部を卒業しました、栗原めぐみです。そのあと大学院に進学しましたので、合計6年間を深江キャンパスで過ごしました。40歳という節目の年を迎えたところで20歳ごろの自分を振り返る機会をいただき、大変感謝しています。過去を振り返り現在を見つめる中で、今回「生涯続く学びと挑戦」というテーマを選定したのは、おそらく多くの人にとって、この事実気づくのが、大学生時代か、大学卒業後間もない頃ではないかと考えたからです。先輩方に共感していただき、現役の後輩たちには今後の人生の参考にさせていただき、皆さんに楽しく聞いてもらうのに最適と考えました。多くの人は、あたかも最終ゴールのような錯覚をして高校受験や大学受験に精を出して取り組みます。しかしそのあと就職試験や昇格試験、それとは別で資格試験、部活をしている場合は試合やコンテスト等、様々な試練が待ち受けていて、終わることはありません。今回は、私個人が取り組んできた学びと挑戦、そしてそれと大学生時代との関りについて、紹介します。

今から思うと、私にとっての学生時代は人生の転換点であり、今のスタイルを築く起点でもありました。私は現在、NHK 京都放送局で気象キャスターとして働いています。一見、海や船とは無関係の職務ではありますが、今の自分の働き方は、深江で過ごしたベースがあったからこそ実現したものだと確信しています。大学では、学問以外も多くを学びました。私が今でも忘れないのは、入学式の挨拶である教授がおっしゃっていた「3日間徹夜し、且つパフォーマンスを崩さない、そんな体力をこの4年間で身につけてください」という言葉です。そんなことできるわけがないだろう、と、かなり驚いたのでよく覚えているのですが、卒業後10年以上が経過してから、ようやくこの意味、意図が分かりました。第一線で働き続けていると、これに近い能力が必要なタイミングがやってきます。私の場合、30代で初めて直面しましたが、船舶関連、特に乗組員として働いている方々は、もっと若いうちに経験されているのかもしれませんが、私が所属していた女子カッター部の顧問の言葉、「大学の友達は一生の友達」も、今でも大切にしています。友人というのはどの時代にも出いますが、大学の友人は、社会人になったあと、いろんなタイミングで繋がります。気象キャスターになる前の仕事、ヤンマー株式会社に勤めていた頃、MOLのコンテナ船に、乗船工事に邪魔されたことがありました。学生時代の先輩、後輩、同期、と、多くの乗組員と再会し、「一生の友達」の意味を知りました。船舶業界を離れた今では頻度こそ減ったものの、やはり繋がることはありますし、本講演もその中のひとつだと思います。多くの人は、中学校までを義務教育で終えたのち、自宅に近い、自身の偏差値に合った高校へ進学します。私にとってもそうなのですが、大学進学は、夥しい選択肢の中から自分で進路を決める、人生で初めての岐路だった、という人がかなり多いと思います。その選択肢が一致した仲間だからこそ、働く業界が違っていても絆を感じるのではないかと思います。とりわけ深江キャンパスという場所は、乗船実習はじめ、私たちに濃厚な思い出を提供してくれましたので、この感覚は、その他多くの大学・学部よりもいっそう強いものと考えます。



トレラン会場から気象解説

深江キャンパスを離れたあとの私の略歴を申し上げます。大学院終了後は、ヤンマー株式会社にて、4年半ほど勤め、市場サービス部門と、開発部試験部を経験しました。開発部では、

主として船用ディーゼル機関のIMO2次規制の対応を職務とし、船級協会の検査官の皆さまの前で試験機を運転し、商品化する仕事を担当していました。気象に真剣に興味を持ったのは、この頃、毎日、工場内の百葉箱の乾球・湿球温度に気圧等を計測し、排気ガス成分の補正計算をしていたことに始まります。充実した仕事から進路を変えることに迷いがなかったわけではないのですが、仕事環境に行き詰まり悩む中、人生一度きり、思い切って別の分野に飛び込もうと、気象学の勉強を始めました。2年ほど、慶應義塾大学で研究補助の仕事しながら気象学と話し方の勉強をし、平成25年(2013年)11月より、ご縁があって、民間の放送局、株式会社熊本放送でキャスターを務めることになりました。7年半ほど熊本に住んで、震度7を2回記録した熊本地震や、球磨川が氾濫した令和2年7月豪雨も経験しました。「3日間徹夜して且つパフォーマンスを崩さない体力」が必要とされたのはこの頃です。情報を欲している皆さんのためにできることをと、必死でした。船舶の仕事も気象の仕事も、自然に向き合う、という意味では近い部分もあると思います。そして、NHK 京都局で働き始めたのが、昨年(2021年)の4月からです。熊本でキャスターをしていた頃は完全なフリーだったのですが、現在は、南気象予報士事務所に所属しています。簡単に捕捉しますと、私たち気象キャスターは、テレビ局で働いていますが、局員ではなく、帯番組を持っているタレントと同じような働き方です。決して安定した仕事ではありませんので、たとえ今の担当番組を外れることになっても、他で欲してもらえよう、自分の価値をより高めるべく日々学びを続けています。

ここで、気象キャスターという仕事についてご説明します。テレビやラジオに出演して話す、華やかな仕事というイメージ持つ人が多いと思いますし、私自身も、華やかな業界だな、と感じています。ただ、地方局のキャスターというのは、出演して話す以外の業務が多量にあります。天気図解析はもちろん、季節の話題提供などの取材はゼロから一人でする必要があります。時には自分でカメラや三脚を持って取材現場に出向き、映像を撮影することもあります。東京の大きなテレビ局では1キャスターがここまですることはないかもしれませんが、地方局は、「話題提供を含む気象コーナーを一人で完結する」というのが基本です。技術職出身の私は、天気図のことは懸命に学んできたものの、植物や生活情報には疎く、しかし求められる比重は実はそちらの方が大きい、という現実を働き始めてから知りました。初めの頃は、そんな蘊蓄を語るのは気象予報士ではなくてもできることではないか、「お天気オタク」「お天気博士」と勘違いされては困る、と悔しさも感じましたが、今では、仕事である以上求められることもすべき、と自覚し、気象学以外にも真剣に取り組んでいます。何でもやらなければならない、「多分野の能力が必要」ということは、言い換えると、何でも生かすことができる、とも考えられます。趣味、特技、単に好きなもの、過去の経験、交友関係、多ければ多いほど、深ければ深いほど、役に立ちます。特に、人数の少ない地方局では、何かに特化して詳しい人が、ニュース内容を掘り下げて詳しく解説する「コメンテーター」を兼ねることもあって、熊本の海洋関連の高校の練習船「熊本丸」出航のニュースの時に、操練の話をしたこともあります。韓国の船舶事故の直後だったもので、保護者や皆さんが安心できるよう話してほしい、とニュースデスクから依頼がありました。「熊本丸」に電話取材はしたものの、「緊急時は居室ではなく後部甲板に集まるのが基本です」と伝えることができたのは、練習船での経験のお陰です。現在のNHK 京都局でも、リポーターの方が取材した海洋高校の特集のあと、カッターについて一言だけコメントしたことがありました。気象以外でも色んなことに一生懸命取り組んでいると、案外生かせるときがくるものだな、と感じています。中でも最近、特に仕事に生かすことができているのが、山道を走る「トレイルランニング」という趣味です。



カッター部時代

山は自然のいろんなことを教えてくれます。標高ごとに雲のかかり方、風の吹き方も変わります。山を登ることで、雲の断面を体感することもできます。山を知ることは気象を深めることに繋がります。山を知る目的であれば走る必要はないのかもしれませんが、より速く移動することにより遠くまで行くことができます。短い時間でより遠くまで進むことができると、より多くの情報を得ることができます。言うまでもなく、季節の植物に出会える確率もかなり上がります。トレイルランニングは、今から約6年前に友人に誘われて始めたのですが、近年では100kmを超える山岳レースにも参加するようになりましたので、夜間の山の空気の冷たさや、朝日が昇る喜びも身をもって感じるできるようになりました。3日間の徹夜はしていませんが、大学時代に染みついた初代大羽真治学長のお言葉「常に気力と体力を」という考えがあったからこそ、今の自分があるような気がします。この趣味は、熊本ではやがて、スポンサーをつけた特別番組の作成にまで至りました。何かに一生懸命取り組んでいると、仕事ではなかったことが仕事になる日もやってくることもある、と実感した一例です。

今から思い起こすと、私が初めて山を走ったのは、「耐寒行事六甲登山」でした。当時は大した装備もなく、皆無謀に山を登り、楽しんでた記憶です。卒業後は、たまにハイキングに行くことはありましたが、走っていたわけではないですし、山を本格的な趣味にするとも想像していませんでした。それが、あるきっかけでトレイルランニングをやってみると、すぐに夢中になりました。根底には、六甲登山を毎年楽しんでた、というのがあってと思います。やはり今の私の基盤を築いたのは深江キャンパスであり、その頃好きになったもの、楽しめたものは、それ以降もずっと好きなのだろうと思います。

ここで「生涯続く学びと挑戦」の本質に話を戻します。仕事のプロジェクト達成であったり、新しい料理に挑戦したり、子供の育て方について勉強したり、大小はあっても、おそらく誰もがそれぞれ人生の中で何かを学んだり挑戦したりしていることと思います。私が、自ら積極的に挑戦している一つが「資格」です。私は気象予報士以外にも「資格マニアですか？」と聞かれるほど、たくさんの資格を持っています。ただ、資格マニアと呼ばれるような心理はなく、どれも、その時々で、知識の必要性を感じたり、詳しくなりたいと思ったときに、「資格試験」というゴールがあったほうが、都合がいい(勉強に取り組むやすい)と考えているためです。エネルギー管理士は、燃烧工学を専門としていた学生時代の担当教官の勧めで受けました。1級小型船舶操縦士を取ったのは、せっかく商船大学に来たから形にできるものが欲しかった、という理由です。手話技能検定4級を勉強したのは、トレイルランニングで、たまたま並走していた聾者ランナーとロスト(道迷い)をした経験からです。ゴールが設定されると、それに向かって勉強するので、生活にメリハリがつきます。

私の場合、何もしないよりも、やるべきことがあったほうが、案外仕事も家事も進みます。趣味では、やはりトレイルランニングが1番の「挑戦」です。100km超えの大会や、50km程度でも制限時間の厳しい大会では、毎回、時間内に完走できないのではないかと不安に駆られるの



100キロ越えのトレランを完走

ですが、「できないと思われることを達成する」というのは非常に気持ちよく、人生を豊かなものにしてくれます。仕事では、毎日の業務の中では、夕方6時30分のニュースに向けた小さな挑戦が続きます。気象キャスターは、大きく分けた「専門知識があるプレゼンター」型と「プレゼンテーション能力のある専門家」の2通りが存在します。ディーゼルエンジニア出身の私は現在も後者だと自負していて、今後も専門家として成長したい所存です。幸い、私が所属する南気象予報士事務所は、技術教育に厳しく、毎月3回程度ある勉強会で、天気図解析能力を鍛えられています。厳しい指摘を受けることもあるので、自分の能力の低さに落ち込むこともありましたが、毎回、終わった後は、成長した自分に気持ちよさを感じています。このような気持ちよさを得続けるため、私はこれからも挑戦を全力で楽しんでゆくと思います。

ところで、人生には大きなピンチ、落ち込む出来事が突如やってくるのがあって、先輩方も経験されていることと思います。その時はなかなか前向きになれないものですが、大きなピンチは、その後の大きな学びや挑戦に繋がることが多いように感じます。私が気象キャスター業務の中で最も大きなショックを受けたのは、令和2年(2020年)の球磨川の洪水です。適切な予測と情報を出せなかった、という思いがあるので、平成28年(2016年)の熊本地震よりもかなり辛いものがありました。この落ち込みから回復できたのは、ランニング仲間のお陰です。災害ボランティアに誘ってくれて、毎週末、被災地に出向きました。被害が大きかった八代市坂本では「体力のある俺たちが人間重機になって重機の入れない場所で頑張ろう」と取り仕切ってくれたトレイルランニング仲間のグループにも参加させてもらいました。被災地で頑張る中で、洪水がどんな状況をもたらすのかを学んだり、被害にあった人が避難行動に至るまでの心理を聞かせてもらったり、気象予報士としてかけがえのない経験を得ることができました。

熊本放送から他の放送局への転職活動をする際も、コロナ禍で募集も少なく、辛さもありましたが、結果的に、自分を成長させてくれる事務所に会えることができました。これらのピンチを経験した上で、窮地に置かれたと感じた時には「冷静になる」「実現可能な選択肢を挙げる」「優先順位を決める」「人を頼る」というのが大切だと感じました。自分がどうなりたいか、どんな形なら可能なのか、改めて考え直すチャンスです。そして、一人で考え込みがちですが、人を頼ったほうが、案外自分が行きたい方向に導いてもらえるものだな、とも感じています。実際、私の人生は、人からのアドバイスを受けてたり助けてもらったりで成り立っています。大学の繋がり含め、自分を大切に思ってくれる友人や恩師はこれからも大切にしたいと思っています。

私の今後の展望はどうなってゆくか、まだわかりませんが、まずは既に取り掛かっている勉強を続け、日々の業務を毎日少しずつ前進させ、たくさんの人に応援してもらえる人になることを当面は心がけてゆく所存です。40代、自分が頑張るだけでなく、後輩へ経験を継承する年代にも入ってきました。今回の私の経験談が、少しでも面白いと感じてもらえたり、参考にしてもらえたりしたならば、大変光栄です。



東原球磨川ボランティア



ホームカミングデイ特集

SURVEYOR - 海事鑑定人という職業 -

一般社団法人日本海事検定協会代表理事会長 齋藤 威志 N29 期

皆さんこんにちは、私、一般社団法人日本海事検定協会代表理事会長の齋藤と申します。もう卒業して働き出してから40年近くなり社会人生活も終わりに近づこうかというステージの私のような者にホームカミングデーの催しの中で在校生、卒業生の皆さんにお話しする機会を与えて頂きまして誠にありがとうございます。

本日はタイトルにもありますように SURVEYOR (海事

鑑定人) という職業の概要と商船大学で受けた教育についてお話をさせていただきます。

私の自己紹介を若干させていただきますと、1962年(昭和37年)徳島県生まれ、父親が内航船の航海士であった影響もあり、普通のサラリーマンで電車通勤したくないというお粗末な理由で神戸商船大学に入りました。航海科29



期になります。乗船実習は旧海王丸に乗りました。当時日本丸は新しくなっており不公平を感じたものでした。あの頃は乗船実習科を終了して海技免状を持っても成績優秀でなくては船会社に就職することは困難でした。成績についてはなんとも言えない私の選択肢として現在まで勤めている日本海事検定協会に就職しました。協会の大阪支部を皮切りに海外駐在を含んで8回ほど転勤し、2019年に代表理事会長となりました。

さて、SURVEYOR（海事鑑定人）というのはどういう職業なのか？弊会では「海事・運送に関する内容について第三者の立場で検査・鑑定を行って証明する者」と定義しています。また、昨今のインターネットでの検索結果では「港湾運送事業法上の鑑定人」と表現されています。

前述の「第三者」ということが弊会にとって最も重要なキーワードで、顧客の要望が有れば定款から外れない限りどのような事でも「第三者」として調査し報告書、鑑定書を作成します。対象は基本的には陸海空を輸送される物の質、量、状態になります。

弊会、日本海事検定協会はそのSURVEYORを多く抱えている最も大きい組織です。設立は大正2年で既に100年を超えます。正職員数は現在500名強、そのうち商船大学系、商船高専系の卒業生が約120名、神戸の卒業生は約50名です。加えて水産系、海洋学部系の卒業生が約80名おりますので半分弱が水産系の学校の卒業生になります。事業所は国内の主要港79カ所にあり、海外9カ国に19の事務所、合弁会社があります。一般社団法人としては相当の規模ではないかと思えます。

弊会では主な事業として、安全技術関連事業、鑑定・検査事業、検定事業、分析事業の4つの事業を行っておりますが、ここでは商船系の卒業生が主にSURVEYORとして担当する鑑定・検査事業について説明させていただきます。弊会の特徴と言えるのは事業、業務の種類がすごく多いことです。他の事業につきまして興味のある方は弊会のホームページ <https://www.nkkk.or.jp> をご覧ください。

鑑定・検査事業の中でも業務は多岐に亘ります。SURVEYを行う分野、またINSPECTIONを行う分野に分かれます。和訳すると両方とも調査、検査かもしれませんが、SURVEYはSURVEYORがその眼で見（機器も使いますが）自分の判断を入れて検査・鑑定するもので、INSPECTIONはINSPECTORが規則に則って検査して計測する、または、基準に準じているのかどうかを判定するものです。

今日はSURVEYORのお話ですのでその分野について進めます。SURVEYORの業務は大きく3種あります。

①事故の後処理、②事故の防止、③量と質の検査、と言えます。

① 事故の後処理

対象が貨物であれば貨物損害検査 (Cargo Damage Survey)、船自身の損害であれば船体検査 (Hull Survey) で、貨物も船体も普通は保険に入っていますから、事故が発生した場合に荷主や船主の要請でSURVEYORが対象を鑑定、検査、査定して事故原因、損害額を調査し報告書を作成します。

② 事故の防止

巨大な貨物や特殊な貨物が輸送される時、やはり貨物に保険がかかっていますので、保険会社の要請でSURVEYORが本船やコンテナへの積込に立ち合い、その積み付け状態が輸送に適しており、安全に運べるのかどうかを鑑定・検査する積付検査 (Stowage Survey)。保険とは関係なく純粋に安全輸送のために要請されることもあります。

③ 量と質の検査

膨大な量の鉄鉱石や石炭等が船舶でバラ積み輸送される時の貨物の重さを売買上の第三者として本船の喫水を測読することで算出する喫水検査 (Draft Survey)。また、輸出入される貨物の状態を第三者として検査して報告書を作成する貨物状態検査 (Condition Survey)。貨物の引渡時の責任関係をはっきりさせるためです。

簡単に一部だけ抜粋して説明しましたが、SURVEYORはこのような業務を行っています。そして私自身が永らくこの業務を行って改めて気付いたことがありました。

それは、商船大学で受けた教育や実習が実はこの職業に相当に役になっているということです。就職した当初は船や海のことを学び、乗船実習科まで行ったのに船乗りにな

れず、無駄なことだったのだと思っていましたが、実はそうではありませんでした。

例えば貨物や船体の検査では船の構造は「船舶工学」、貨物の流れは「海運経済論」「国際貿易」、かかっている保険のことは「海上保険論」、書類のことは「海運経済論」「載荷論」、報告書は英文ですので「海事実用英語」等々、SURVEYORが実施すべき業務には商船大学で習った内容が必須なのです。(科目名は新旧有り不正確です。ご容赦ください。)

加えて、積付検査では船の動きを知る「航海力学」、海の状態を知るための「海洋気象学」、また積付固縛の強度の計算には「材料力学」まで、学生の頃に受けた様々な教育が実践の場で必要でした。

怠け者の私としては科目名を思い出すだけで、その都度昔の教科書を引っ張り出して再度勉強することの繰り返しでした。

その中で最も役にたったことは実験と実習だったと思います。それこそ船会社で航海士にならなければ意味が無いように思われるかもしれませんが、船で海を航海するということを経験していることはとても重要なことです。長年貨物を輸出入している会社の担当者でも貨物が輸送される荒れた外洋でどのようにしているのかは想像もつきません。それを練習船での短い期間でも経験しているのは大きなアドバンテージだと思います。

こちらの学校を卒業し弊会を就職希望先として受験してくれる学生さんも何人かいて、以前に私が採用面接を行った時に「帆船実習に行ってもいいでしょうか？」と聞かれることが何度かありました。企業によっては就職時期が半年ずれるのが嫌がられることがあるようです。弊会ではいつも「ぜひ実習に行ってください。」と逆にお願いをしています。

入学した目的は航海士になることでしたが目標達成出来ず、または、様々な事情により陸上の職についた商船大学の卒業生は私を含め多くいるはずですが、しかし、商船大学で受けた様々な教育、また、乗船実習で得た経験は陸上の実社会でも大いに生かされているのではないかと推測します。

商船教育は船乗りのためだけではなく、物流や貿易の国際的な舞台で役にたっているものと信じています。

神戸商船大学はなくなり神戸大学となりましたが、我々のような物流に携わる多くの職業のために、その教育内容は進化しつつ継続されることを期待致します。

以上で本日のお話とさせていただきます。

ありがとうございました。

日本海事検定協会 HP



講演中



船体検査

積付検査



マリンエンジニアリングコース乗船実習科を修了して思うこと

日本郵船株式会社 井上 果咲 (2022年9月実習科卒) 67期 (海事15期)

第1章：マリンエンジニアリングを選ぶまで / 必須物理との長い付き合い

有川浩の小説に影響を受け、高校生のころ自衛隊に憧れるようになりました。中でも海上自衛隊が好きで、将来は潜水艦を造る仕事に就こうと思い、海や船について幅広く学べる海事科学部を目指しました。晴れて神戸大学入学後、造船に携われるマリンエンジニアリング学科を選択し、毎日理系科目の授業を受けていました。その中でも印象的だったのは藤本先生の「材料力学」です。材料にかかる力やそれによって生じる歪みに関する授業で、私は当初かなり苦戦して単位を落としてしまいました。そんな中思い出したのは高校の頃、親身になってご指導して下さった物理の山下先生です。山下先生は物理が全くわかっていなかった私を、神戸大学2次試験の物理対策の時まで、そばで支えてくださった先生で、そんな山下先生と過ごした時間を思い出しながらひたむきに「材料力学」を勉強しました。すると難しく感じていた「材料力学」の授業が実は非常に丁寧に解説されていることがわかるようになり、最後には非常によい成績で「材料力学」をクリアすることができました。私は今でも、こういった高校の物理や材料力学の授業を経て、物理に特化したマリンエンジニアリング学科でも続けられると自信を持つことができたと考えています。

第2章：乗船実習科に進んだ理由 / 私が機関士の道を選んだのは

2回生の乗船実習の時、船で働くことに興味を持ちました。実際にバルブを操作して順に機器を始動し、大きな船を動かした時には心から感動しました。そして何より練習船の教官たちが楽しそうにいきいきと働いていたことが、船で働いてみたいと考えるようになったきっかけです。3回生の実習では、本格的に機関士になろうと考えはじめました。3回生は本格的に機関士の仕事について学ぶ機会が多く、エンジンルームでは主機、発電機、ボイラーを含む数々の機器が相互に影響を与えながら、運転されていることを知りました。機関士はそれらの運転管理をしなければいけません。整備項目は2千以上で、機器によって専門性が求められます。運転管理において切り離せないのがトラブル対応で、トラブルが起きた際、機関士は想定される様々な原因に対して最適な方法を選び対処します。それも自分が知っている解決方法を、ただ順に当てはめるのでは間に合わないの、海洋や天候、機器の運転時間など、その場に合わせた方法でアプローチする必要があります。このプロセスが面白いと感じました。また、ありきたりな言葉にはなり

ますが、海上物流に関わる船乗りの仕事にはやりがいがあります。石油ガスや天然ガスの船輸送が止まったり、船による輸入食品がなくなると、たちまち普通の生活が困難になってしまうほど、海運は日本の生活基盤を支えています。こうして海上物流に携わる船乗りかつ、機関士になりたいと強く思うようになりました。乗船実習科は大変ですが、船乗りの第一歩としてぜひ挑戦してみたいと思います。

第3章：実習の思い出 / コロナ渦の実習生活
- 青雲丸での3ヶ月 エンジンルームの本当の姿

年が明けて(2022年)、4回生最後の3ヶ月。私は東京の晴海埠頭から青雲丸に乗船し、神戸へ向け夜航海が始まりました。初日から珍しく船が大揺れし、まともに立ってられず昼食のスープもこぼれるほどの揺れだったため多くの実習生が船酔いし、実習どころではありませんでした。青雲丸には同学年の東京海洋大生や自社養成、波方の実習生も乗っていましたが、最初に変な航海を共に乗り越えたおかげで私たちの仲はすぐに深まりました。

青雲丸の実習で思い出深いのは配管調査と調査発表会です。3回生までの実習では、機器の役割を学ぶ実習でしたが、今回からは機器を構成する配管やバルブ、センサーなど各部品が存在意義について考える実習が始まりました。配管調査では、まずエンジンルームの配管図をトレースし、配管と機器の繋がり方を理解します。次になぜバルブやセンサーがその位置にあるのか理由を考えていきます。その調査結果を学生同士で発表し合うことでエンジンルーム全体の理解を深め、ただただすごい機器が動いているように見えたエンジンルームの全体像がくっきりしてきたことが、私にとって印象的でした。

授業以外にも寄港の楽しみがあるのが実習科です。青雲丸では高松港、鹿児島港、神戸港に寄港しました。特に楽しかったのは高松で、私は友人と金比羅山に登り、金刀比羅宮を参拝しました。この神社では海上守護の神様も祀っており、境内には直径6m、重さ19.2tの巨大なプロペラが奉納されていました。近くの海の科学館には、操縦によって船橋自体が動く実寸大の船橋や、実際に油圧をかけて動かせるCPPの模型、戦前に使われていた焼玉エンジンなどがあり、機関科の友人と大興奮して見学したことを覚えています。



遠洋航海中イベント



遠洋航海南鳥島

- 銀河丸 / 乗船実習科での6ヶ月 (前半) 仲間となにかを成し遂げたい

卒業式を終え、2022年4月1日。私たちは銀河丸に乗船しました。しかしすぐに船内でコロナが発生し、10日間の自宅待機命令、加えて以降、寄港地での自由行動は禁止となり、しばらくは黙々と実習が続いていきました。しかし、そんな中でも楽しいことがしたいと考え、機関科の友人たちとCMで有名な曲でダンスを1曲撮影することにしました。そこから、空き時間を見つけては運動甲板に集まって、スマホを見ながら練習の毎日です。初心者ばかりだったので、手探りで少しずつダンスを覚えており、完成するのか不安な時もありましたが、ようやく6月の下船式前日に完成しました。最終的に形になって、本当に嬉しかったのを覚えています。



井上ダンスメンバー

- 銀河丸 / 乗船実習科での6ヶ月 (後半) 降るような星空

一時下船をはさみ、乗船実習科後半はついに累計4000マイルの遠洋航海です。1航海目は、東京湾を出港、南鳥島を一周、2航海目は大阪湾を出港し、沖縄を一周しました。

この期間の最後の実習は、実習生が主体的に作業を行うピストン抜き出し実習があります。これまでの実習は、教官から整備手順や注意点の指示を受けながら進行了ましたが、今回は整備手順の把握、役割の分配、道具の準備から片付けまで、基本的に実習生が進めました。普段の班と別に、新しく3班に編成され、班ごとに分厚い資料を見ながら、ときにはやっぱり教官に助けを借りながら準備を整えていきました。実施時には皆積極的にコミュニケーションを取って、どの班も4日間にわたるピストン抜き出し実習は無事成功させることができました。この実習では、船の堪航性保持のために、まずは乗組員が安全に整備を完遂することが大切であり、そのために準備を怠らないこと、作業当日は仲間同士で声を掛け合い、安全意識を共有することを学びました。

遠洋航海の素敵なおところは、陸では見られない毎日の美しい景色です。昼の海は周りに他の船もなく、どこを見て

も永遠に続く真っ青な海と水色の空が広がっていました。夜も数えきれない星がまさに銀河丸に向かって降ってくるようで、その中でも特に南鳥島での星空があまりに綺麗で忘れられず、部屋で段ボールとアルミホイルを使ってプラネタリウムを作ったほどです。この景色が、また一段と卒業後これからの航海を期待させてくれています。

第4章：大学時代の趣味 / 合気道

船の話ばかりでしたが、私の趣味の合気道をご紹介します。大学入学を機に合気道を始め、入学してすぐに入ったサークルが楽しく、夢中で練習している間にいつのまにか主将を務めていました。合気道とは攻撃してきた相手の力を利用して投げたり固めたりする武道です。今思えば自衛隊に憧れていたこともあり、防衛を基本姿勢とする合気道をする事で、少しでも自衛隊に近づきたかったという気持ち私の中にあったのかもしれない。合気道の面白いところは、技の良し悪しが体格や筋力でだけで決まるものではなく、力をかけるポイントやタイミングによって決まるところです。なので、女性の私でも派手に男性を投げることができ、ポイントとタイミングのコツを掴むと他の技も一気に上達するので、3ヶ月ほどで驚くほど成長を感じられます。とても面白い武道なのですが、組んでくれる相手がいないとできないので、船では楽しみにくい趣味なのが難点です。現在は船でも続けられる趣味を模索中です。



ピストン抜き

第5章：自分が大切にしてきたこと / そしてこれから

私が大切にしていることは、いつも目標を定めて努力を続けることです。目標を立てる時に特に意識しているのは、最終目標よりも、日々の目標を決めること。最終目標は方針にとどめておき、日々の目標を具体的に、かつ、少しだけ背伸びした内容にすること。そうすることで1つ1つの目標は達成しやすく、達成を繰り返して最終的には大きな結果を得ることができます。勉強面や、人間関係、趣味に関すること、これは何にでもあてはまると思います。私の場合は、高校でテストごとにライバルや目標順位を決めたり、乗船実習では1日や3ヶ月スパンで目標を決めて邁進しました。結果的に高校や乗船実習科で成績優秀者として表彰を受けることができました。私はこれから機関士として船に乗ることになります。最終的に一流の機関長になるように、仕事や人間関係、語学力向上に対して日々小さな目標を立て、達成のために努力することを大切にしていきたいです。



実習科卒業生より

実習を終え、後輩たち伝えたいこと

日本郵船株式会社 安居 空 (2022年9月実習科卒) 67期 (海事15期)

私は、航海マネジメントコースを2022年3月に卒業し、現在は日本郵船株式会社に勤めています。航海士を目指した理由、乗船実習について、後輩に向けての3つのテーマで書きます。

まず、航海士を目指した理由についてですが、高校生の時、理系科目が得意で理系進学を選択したものの就きたい仕事は商社や銀行など文系の職業だったので、理系受験にも関わらず文系就職の実績があるロジスティクスコースに行くつもりで海事科学部に入学をしました。しかし、大学2年のコース選択の際に、元航海士の先生方のお話を聞いて、

人々の生活を根底から支える、少数精鋭で大きな船を動かし、仕事場所が世界中というスケールの大きさに魅力を感じ、航海士の道を進むことを決め、航海マネジメントコースに進みました。入社した今でもこの気持ちは変わりません。

次に、乗船実習についてですが、私達は新型コロナウイルスの影響で社船実習が実施できず、通算1年間JMETSの船でお世話になりました。大学2年で日本丸に1ヶ月、3年で青雲丸に1ヶ月(1ヶ月短縮)、4年で海王丸に3ヶ月、乗船実習科で海王丸に3ヶ月、青雲丸に3ヶ月の乗船履歴

を得ました。特に印象に残っているのは、3年での青雲丸と海王丸での実習です。3年の青雲丸では、班長をすることになり、そこでリーダーシップを学びました。私の班の班員にはできる限りストレスを感じさせないように、班員の变化に直ぐに気付けるよう毎日常細なことでコミュニケーションを取り続けたり、ビンゴ大会などのイベントを開催したり、雰囲気作りを徹底しました。結果として、私達の班では揉め事等は一切なく、楽しく過ごすことができ、班員にも空が班長で良かったと言われてとても嬉しかったです。私自身、実技に関してはボンコツで班員に助けってもらうことばかりで課題もたくさん見つかりましたが、この実習で自分の強みを見つけることができました。海王丸での実習では、沢山の人の出会いがあり、とても刺激的でした。海王丸では、東京海洋大学と日本郵船、商船三井、川崎汽船の自社養成の方たちと海大の専修科生と一緒に乗りました。初めて神戸大の人以外と乗るということで初めは不安でしたが、一緒に実習や共同生活をしていると、すぐに打ち解け、大学・会社・年齢を超えて休暇中にもご飯に行ったり、旅行に行ったりするくらいの仲になることができました。実習の最大の財産はこの出会いだと心から思います。ここまで仲良くなれたのも帆船の影響があると思いました。私達の実習で数年ぶりの帆走を実現することができ、ヤードを回したり、マストに登ったり、帆船は乗っている人全員が協力しあわないと動かないので、団結し、仲良くなれたのだと思います。当時はしんどいと思うこともある帆船でしたが、今では一生の思い出で、帆走ができてよかったと思います。

最後に、後輩に向けてですが、学生時代に最も頑張ったことが就活なので、就職活動について書きます。私は、大学生の時、部活やサークルに参加できておらず、ずっと塾

講師のアルバイトをしていました。そのため、大学3年生の春に就活を始めたときに、アルバイト以外まともに話せることがなくて焦りました。加えて、英語が苦手な私以上にできない人を見たことがないような能力でした。そのことで困っているときに、ゼミの先生と先輩が親身になっていただき、意見を受け、実習船で班長をすること、親の仕事の手伝いをする、就活を誰よりも熱心に取り組むことの3つを行うことにしました。特に就活を熱心に取り組むことに関しては徹底しました。航海士として働くことを決めていた一方で、様々な業界について知ることとインターンシップや面接に慣れておくために、銀行・物流・食品メーカー・百貨店など様々な会社の就活イベントに参加しました。そのため、12月から3月はほとんど毎日、説明会やインターンシップに参加していました。またそれと並行して、船会社のホームページに記載のあるメールアドレスに連絡して、説明会の開催を直談判し、参加者の名簿作りや日程調整をしたり、知り合いを辿ってOB訪問をしたりしました。その結果、部活経験特に無し、英語力無しの私でも充分就活で戦うことができました。この経験から、後輩に伝えたいことは、自分の世界を広げることの大切さです。なりたいたい仕事が決まっても他の仕事について知ってみることもや、普段話さない人と話してみることで新たな発見があり、新たな視点を得ることができます。もう1つは、何をすればいいかわからないときは素直に人を頼って、自分で動くということです。人を頼るだけでもだめで、人の意見を聞かず動くだけでもだめだと思います。もちろん、何かあれば、私のことを頼っていただいても構わないです。みなさんが、したい仕事、いい仲間に出会えることを祈っています。

私も海でも陸でも頼られる航海士を目指して、頑張ります。



帆船実習 1



実習修了書



帆船実習 2



帆船実習 3

集う卒業生たちのコーナー

航海科 7 期生 卒業 60 周年クラス会報告

赤塚 宏一 N7 期

大きな希望を抱いて深江の港から人生航路に乗りだした私達航海科 7 期生、あれから早くも 60 年、今や最終港の灯台のグレアも見える年齢となった。コロナ禍で延び延びとなっていたクラス会だが、卒業 60 周年に合わせて開催することが出来た。

2022 年 10 月 28 日の当日、神戸「しあわせの村」は空あくまで蒼く澄み切り、周囲の丘や林は色鮮やかな紅葉に染まり、思わず見惚れるほどの美しさである。

午後になると三々五々、遠路九州や関東からも参加者がありその数 15 名、入学時の四分の一、まさに盛会だ。夫人同伴も 3 組あった。

午後 6 時には会場に集まり、斎藤君の司会でクラス会の開始、まずは出席者の報告、そして欠席者の消息案内。青木、黒田、塩見、竹花、辻井、徳丸、平倉、細川、細谷、森田の諸君は元気で居るもののさすがに遠出は困難とのことで参加を見送ったが、皆がクラス会の盛会を祈ってくれた。その後、音信不通の諸兄についても情報の交換が行われた。これらのクラスメートのことを思うと胸が痛む。どうか元気でいて欲しいと思わずにはいられない。

座が乱れぬうちにとまずは記念写真、名カメラマンの柴田君が自慢の名機で撮影準備、シャッターを押してくれる仲居にも細かく注文を付けるこり方、その結果は添付の素晴らしい集合写真。

ここで大きなサプライズがあり。正面のスクリーンに物故者の入学時の写真がしめやかな音楽にのって映し出された。これぞ森君の大労作・力作である。この DVD は後ほど森君から全員に送られた。物故者の映像に引き続きこれまでのクラス会の模様、さらには遠洋航海に出航する海王丸の映像も懐かしの行進曲「錨を揚げて」と共に流れる。

物故者の映像の流れの中、今年になって亡くなった上田俊峰君、庄野茂樹君を始め今は亡きクラスメートを偲んで黙祷、ついで山崎君による死者回向の為の謡いが披露された。

それは「賀茂」という曲の 1 節で「年の矢の早くも過ぐる光陰、惜しめても帰らぬは本の水、流れはよも尽きじ、絶えせぬぞ手向けなりける」である。

謡はこれまでに以上に重々しく荘重で、これは山崎君が日々古典芸能の修行に勤しんでいる証だろう。

そして、次は一転して 60 周年記念のクラス会を言祝ぐ謡で「高砂」最後の 1 節「千秋楽は民を撫で、万歳楽には命を延ぶ、相生の松風、颯颯の声ぞ楽しむ、颯颯の声ぞ楽しむ」である。

こうして一連の儀式は終わり、いよいよ宴の始まり。乾杯は森本君、短いながらもいつものようにユーモア溢れる音頭である。近況報告はオンライン 7N 会に参加している諸兄を除いた阿部・石破・岩城・亀岡・吉山の諸君。赤塚は最近大学の倉庫から見つかった空手道部の部員の名札を見せて今は亡き上田・庄野・井上部員の思い出を語った。

宴もたけなわになるとあちらこちらで笑い声が響き、また時折鋭い「突っ込み」もはいる。「卒業後 60 年、この長い月日が経過した後でも皆さんと話している内にいつの間にか当時に戻っている。同窓会とは有難いものですね。」との声も聞かれた。

二次会では十数年ぶりに出席した亀岡君に話題が集中したが、本人曰く「大学にはクラスメートより 2 年も長く在籍し、麻雀道を極めると共に操船理論もしっかり学んだ。卒業後 60 年経っても未だ敦賀港の現役パイロットとして日々商船大学で学んだことを実践している。俺こそ商船大のエリートだ」という言葉に皆深くうなずいた。その彼も 1～2 年のうちには引退するとのことで、飛び出したのが「最長不倒記録を達成した亀岡潔パイロット引退記念クラス会」という企画でももちろん主役は亀岡君である。半分本気で半分冗談だが、このほか一足早く米寿を迎えるクラスメートを主賓に「七期生米寿記念クラス会」を開催することも皆が賛成し、こうして「しあわせな」クラス会は終わりを告げた。



集う卒業生たちのコーナー

17 期生神戸商船大学 卒業 50 周年記念同窓会報告

石田 廣史 N17 期

神戸商船大学 17 期生が昭和 47 年（1972 年）に卒業してから今年（2022 年）で 50 年を迎えました。思い起こせば、我々 17 期生が入学してから我々を取り巻く大学の環境は慌ただしいものでした。入学後直ぐに深江キャンパス前の阪神高速道路の深江ランプウェイ建設反対運動、そしてその次の年以降に全国的に広まった大学紛争・大学封鎖に見舞われた慌ただしい学生時代でした。大学封鎖解除後の授業再開後は大変でした。日中は集中授業を受けながら夕食後に再度登校し、一年前と半年前の定期試験を連続して受け、そしてその後、集中授業の定期試験、何と集中授業と並行して三つの定期試験を連続して受けました。当時は全寮制だったので、このように日中は集中授業、夕食後に再登校して夜遅くまでの定期試験受験が可能でした。半世紀も前の事で、今となれば夢のように過ぎた慌ただしい学生時代でした。でも神戸商船大学特有な事は、全学封鎖で授業ができない状況でしたが、何とクラブ活動と瀬戸内海カッター巡航だけは大学封鎖グループも認め、それらの活動は継続されていました。

さて、今年（2022 年）になって卒業 50 周年記念同窓会の開催を検討し始めましたが、新型コロナ感染下では 50 周年記念同窓会の開催計画は順調には進みませんでした。同窓会幹事間で新型コロナ感染状況を見ながらやっと 7 月に開催計画にたどり着き、海事科学部・海洋政策科学部や関連施設関係者との調整の下、10 月下旬に同窓会開催の準備を整えました。しかし、同窓会開催通知後、新型コロナ感染の急拡大を受け一旦は開催を延期することになりました。そして 9 月に入ると感染状況が収まり始めたので同窓会開催の準備を再度進めました。しかし、またまた第 8 波新型コロナ感染が拡大し始め、懇親会場のキャンセル料発生を念頭におきながら 12 月 2 日（金）にやっと開催出来ました。17 期生一同、同窓会が無事開催出来るかどうかは心中穏やかではなかったと思います。

同窓会の企画内容は、12 月 2 日は深江キャンパスツアー（キャンパス散策、練習船海神丸と海事博物館見学）とゴルフコンペ、夕方は三ノ宮オリエンタルホテルで 46 名参加の下で懇親会を開催しました。このオリエンタルホテルは我々 17 期生にとっ

ては懐かしいホテルで、初めてのダンスパーティー会場でした。半世紀を経てそのホテルで 50 周年記念同窓会を開催出来たことは感慨深いものでした。同窓会翌日の 12 月 3 日（土）は神戸市内観光ツアーと神戸港観光クルーズ（航海学科のみの企画）を楽しみました。

懇親会場では 50 年ぶりに顔を合わせた同期生を始め、多くの同期生が昔を懐かしみ談笑しました。振り返ってみれば、卒業後の 50 年は我々にとって色々なことがありました。卒業時の海運長期ストライキに伴う就職の混乱、そして結婚、子育て、社会での活動、退職、孫の守等々、各人で思い出し談笑する内容は様々で一杯あったと思います。今回の同窓会は参加者それぞれが卒業後の人生の達成感を感じつつ、個々の半世紀を振り返って語り合える場になりました。

最後になりましたが本誌紙面をお借りして、我々 17 期の卒業 50 周年記念同窓会開催について、キャンパスツアーにご協力頂いた神戸大学海事科学部・海洋政策科学部、練習船海神丸、海事博物館、そして卒業 50 周年記念同窓会開催へのご支援を頂いた同窓会海神会の皆様のご理解とご協力に同期生一同心から御礼申し上げます。また、ご協力頂きました皆様方の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。



航海学科



機関学科



集う卒業生たちのコーナー

神戸商船大学 N・E25 期
A5 期卒業 40 周年記念同期会

代表幹事 辻 隆弘 N25 期

神戸商船大学航海学科と機関学科第 25 期生及び原子動力学科 5 期生の多くは 1980 年 3 月末に卒業し（従前は修業期間 4 年半で 9 月卒業、25 期から 4 年制となり 3 月末で卒業）、乗船履歴を取得するものはその後乗船実習科に進み、9 月末に卒業しました。深江を巣立ち、42 年が経過し、コロナ禍の影響により開催が 2 年遅れとなりましたが、この度、卒業 40 周年の同期会を開催いたしました。

秋本番、晴天のもと 2022 年 10 月 15 日（土）13:30 神戸大学深江キャンパスに集合し、名札配布、個人記念撮影、進徳丸・深江丸・海神丸資料等配布し、学内ツアーポンド散策、練習船「海神丸」を外から見学、卒業 30 年記念植樹の成長確認、海事博物館見学し、懐かし阪神電車に乗り三宮の同期会会場の神戸港新港第一突堤内「ラ・スイート神戸オーシャンズガーデン」に向かいました。同期会は 16:30～19:00 開催し、そして、2 次は、メリケン（亭主 N32）平山好成君で。

今回の同期会は、北は北海道、南は鹿児島から航海学科（N）32 名、機関学科（E）30 名、原子動力学科（A）5 名の 67 名が集いました。

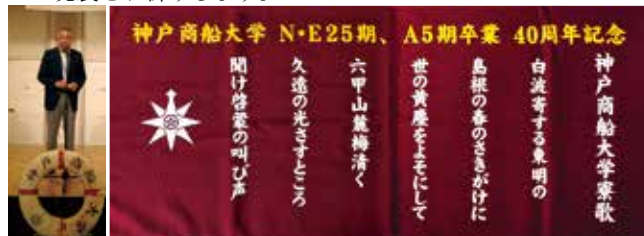
母校は 40 年前とは様変わりし、神戸商船大学は神戸大学に、商船学部は海洋政策学部、「深江丸」は新造練習船「海神丸」に、海事資料館は海事博物館に、ポンドには大型クルーザー「クライナーベルク 44ft」が係留し、体育館・プール・学術交流棟が新設され、アカデミックな様相のキャンパスとなり、大いに時の流れを感じた次第です。

宴会（司会：三浦和雄君（E））では、最初に 6 名の物故者へ黙祷をささげ、16:30 より大宴会が開宴。30 年、40 年ぶり、いや卒業以来というクラスメートもあり、授業や卒研、寮生活、部活、乗船実習等の話で盛り上がり、美酒が進むにつれ声も大きくなり、隣室の結婚披露宴にご迷惑をかけているのではと心配した程です。学科クラス毎に登壇し、記念撮影とともに現状報告する者あり、仕事の宣伝する者あり、自己紹介する者ありで大喝采を浴びていました。会場では 3 ヶ所の巨大スクリーンに開君（N）作成の懐かしい写真がスライドショーで映りだされ、40 数年前にタイムスリップ。懐かしがる声、笑い声あり、乾杯の声など盛会でした。最後に今回の記念品にも描かれている寮歌「白波寄する」を全員で声高らかに斉唱し、卒業 50 周

年の再会を誓い、宴会のお開きとしました。

宴会終了後、2 次会を旧メリケン波止場基部のメリケン亭にて開催。1 次会の勢いをそのままに開宴、40 年前の紅顔可憐な美少年 35 名が、パイロットボートや通船の係留地側で、たっぷりと潮気を吸いながら、美酒に酔いしれていました。還暦を過ぎた前期高齢者は益々意気盛んでありましたが、名残を惜しみながらも、21:30 に目出度く散会しました。

最後に、各学科の参加者の取り纏めや諸準備に奔走してくれた幹事諸兄（（N）立花・開、（E）三浦・藤田、（A）飯尾）及び海事博物館開館や学内調整等にご尽力いただいた E21 期鈴木・N24 期矢野両先輩のご協力、ご支援に深謝し、また神戸大学海洋政策学部同窓会「海神会」から多大なご祝儀を賜りましたことに厚く御礼申し上げるとともに、同窓会「海神会」の益々のご発展をお祈りします。



集う卒業生たちのコーナー

3 年ぶりの関西 20 期同期会

幹事 丸尾 賢二 E20 期

私たち 20 期生は、同期会を関西地区、関東地区で毎年開催し、既に三十数年になります。関西地区は、最近では 12 月の寒い時期を避け、深江界限で 10 月の第 4 土曜日、ホームカミングデイに合わせ、関東地区は 2 月 20 日に開催しています。

コロナ禍で 3 年振りの会となりました。2022 年 10 月 29 日、場所は広東料理「宏軒」で、遠方では鹿児島から初登場、道に迷ってしまった N 迫立貢君、神奈川県海老名市からは E 増田真一郎君を迎え、同期生 15 名とホームカミングデイの学生スタッフ達 6 名の総勢 21 名の参加となりました。

当日、先着のホームカミングデイ参加組は、待ちきれずに別勘定で早くも一杯、やっぱり商船大生時の名残りが。（笑）

最初に、世話役の池田隆宏君から、最近他界した同期生の報告がありました。8 月に心筋梗塞で急逝した E 岡部かずひ君、9 月にパイロットボートで深夜の水先業務に向かう途中で防波堤への衝突事故により不慮の死をとげた N 山下勇人君の 2 名です。学生時代の山下君について、E 村上（武田）喜光君から「彼とは美術部で一緒でした。N 佐藤史南君と 3 名で復活させたクラブでした。」と、また N 塩谷達夫君からも「実習中、同室で彼の独特の雰囲気は脳裏に刻まれています。彼の描いた絵手紙は秀逸で、皆の羨望でした」との思い出話が紹介され、ご遺族に 20 期同期生一同で心ばかりのお供えをしたことが報告され、続いてお二人の死を悼み黙祷を捧げました。

その後は久しぶりの再会を喜び、N 幹事の早光篤彦君の音頭で乾杯、宴が始まりました。歓談の内に時は過ぎ、恒例の各人近況へ。仕事現役組からは、2 日前に下船、急遽参加し、まだまだ現役で頑張る機関長。この 6 月友が島水道で下船中落水し、無事生還したベイパイロット君。11 月から海上復帰する船社の専務。船の管理業務で全国各地を飛び回っている元船長などから。リタイア組からは、猛暑の中、自室を D.I.Y. で改装した猛者。第 2 の人生、維持費のかかる愛車を手放し、netflix にはまってる者。娘婿の仕事を手伝うため「宅地建物取引士」資格を取得したチャレンジャー。田舎の空き家（実家）の管理と猪、鹿、ウサギが遊びに来る畑で、春はたけのこ、フキ、梅、夏は夏野菜、

秋は柿、ミカン、冬は大根と自然の恵みを楽しみ、草刈に追われる田舎者などから、それぞれ面白い話が聞けました。好きなゴルフを存分に楽しんでいるもの、なかなか上達しない私を含め、これから先も元気で過ごしたいものだと思えばかりでした。

そんな中、これからの社会を背負う現役学生達から、伝統を受け継ぎ、船乗りになる意気込みなどを聞かせてもらいました。このような若者と話す機会を持って、元気を吸収できたことを、皆喜んでいました。

宴の締めくくりは寮歌斉唱です。
「白波寄する東明の一鳥根の春のさきがけに一……久遠の光さすところ聞け啓蒙の叫び声」

迫立 やれーの声に自己紹介がはじまる。「鹿児島県立玉龍高等学校出身 1 年デッキー 迫立貢でーす。以後宜しくお願いいたします。」続いて だっこちゃん、蟬（みーん、みん、みーん）を演じ拍手喝采。

「岸打つ瀟に声合わせー男子の歌を歌うときー……黎明の鐘高鳴れば一海の文化のひびきあり」

N 幹事の早光篤彦君の音頭で、来年の再会と皆の健康を祈願し、恒例の一本締めで閉会しました。

20 期生はなぜか深江から離れられない集まりです。



深江キャンパス 部活動の紹介



新入生諸君へ！同窓会海神会は、深江キャンパスを拠点として活動する部活動を支援しています。この2年間新型コロナの影響を受け部員獲得、活動に支障をきたしたと聞き及んでいます。是非、芝生グラウンド、海神丸やヨットが停泊するポンドに足を運んでください。

オフショアセーリング部

部活動

みなさんこんにちは！神戸大学オフショアセーリング部です。

私達はクルーザーヨットと呼ばれる5人や6人、あるいはそれ以上の人数で動かす大型ヨットに乗って活動しています。ヨットは風の力だけで動くためセーリング中は、波の音、風の切る音、海の香りなどの自然を感じることができます。この心地よさは実際に乗ってみて、五感を働かせ見て・聞いて・感じてみると多くの人が虜になります。

主な活動としては、競技大会とクルージングがあります。まず、競技大会に関してですが、全国大会で優勝や世界大会への参加経験があり、2017年にフランスで開催された世界大会（Student Yachting World Cup）での世界一の経験もあります。次にクルージングについて、毎年夏になると淡路島、徳島や和歌山方面に部員達でヨットに乗って遊びに行きます。いつも自分たちが住んでいる街を海から眺めたり、のどかな港町を散策したり、星空を見ながら海辺で寝そべったりなど「普通の」大学生ではなかなか体験できないことができます。

なんとなくオフショアセーリング部についてのイメージは思い描けたでしょうか？

特に新入生の皆様は一度、来て・見て・乗って・感じてみてください。見たことない情景が見える事でしょう！深江キャンパスでお待ちしております。

海洋政策科学部 2回生 主将：山田 美桜

- ・練習場所：神戸大学深江キャンパスポンド、深江キャンパス沖
- ・練習時間：自由（放課後・授業の空きコマ・土日等）
- ・部費：月3000円

- ・HP：<https://kuosc2003.wixsite.com/my-site>
- ・Facebook：<https://www.facebook.com/offshoresailingclub/>
- ・Instagram：kuosc_sailing



男子端艇部

部活動

端艇（カッター）部では、カッターと呼ばれる9mの手漕ぎの船を用いて、2,000mの距離を14人で漕ぎ順位を競う競技を行っています。ヨットのように帆を使うことは行わず、体力と気力でオールで漕ぎまくる競技です。今年度は、3年ぶりに大会が開催され、全日本大会では5位、西日本新人大会では準優勝の成績を納めました。現在、3回生8人、2回生5人、1回生7人の合計20人で活動しており、「全日本優勝」を目標に掲げ、活気あふれる練習を行っています。このように活動ができておりますのも、海神会様からのご支援が支えとなり、結果で恩返しができるように今後も努力して参りたいと思っております。

また、コロナの影響で3年間開催できていなかった東京海洋大学との定期戦については2023年3月の開催に向けて、現在調整を行なっている段階です。

新入生の皆さん！カッターは大学から始める人がほとんどを占める競技です。新しい部活動に挑戦してみたい、今まで行なってきた部活動とは違う競技で「日本一」を目指したいという学生にとってはこれ以上ない環境と言えます。目標に向かって努力できる、そんな部員を大募集しています！海洋政策科学部に入学したのなら、ぜひカッターに触れて感じて経験してみてください。お待ちしております。

- ・練習日程：平均週3回
- ・練習場所：深江キャンパス
- ・部費：1000円/月
- ・連絡先：長尾 公太郎（主将）

Mail：2087139w@stu.kobe-u.ac.jp
Tel：090-2119-2773



instagram

海事科学部 3回生 主将：長尾 公太郎



神戸大学体育会ラグビー部

経営学部 4年 主将：南 竜太郎

部活動

深江キャンパス芝生グラウンドを拠点として、リーグ戦、三商戦、近畿国立大会の三大会での優勝を目標に活動しています。また、我がラグビー部は「学生主体」が基本の組織です。監督、コーチやOBの方々からサポートをして頂きながら、組織運営、練習メニュー等を全て選手で考えています。

2019年の日本で開催されたラグビーW杯が注目の的となった影響もあり、多くの未経験者でも我が部で活躍ができ、それぞれの個性を発揮した選手に成長しています。神大ラグビー部の練習は、自分の時間も確保し、趣味やバイトもできることから、メリハリのある学生生活が送れると思います。

自宅生、一人暮らし、経験者、未経験者、マネージャー問わず、神大ラグビー部は大歓迎です。気軽になんでも聞いてください。深江キャンパス芝生グラウンドを拠点にしているからこそ、特に海洋政策科学部の新入生には是非ラグビー部を見に来て頂きたいです。新歓ではビンゴ大会やBBQを開催しているので是非来てください！

・練習場所：深江グラウンド 六甲台グラウンド

・練習日時：火、水、金、土、日

平日 17:00 ~ 19:00 土日祝 09:00 ~ 11:00

・部 費：¥10,000 / 年

・連絡先：Twitter :@kobe_u_rugby Instagram:orcas_kobe



体育会カヌー部

海洋政策科学部 2回生 主将：齊藤 光雪

部活動

体育会カヌー部では、毎年8月に行われる関西学生カヌー選手権、インカレで部員全員が勝つことを目標として深江キャンパスを拠点に活動しています。平日は週2回3時間、休日は10時から18時まで活動しています。

大学カヌースプリントの大会には新人の部があり、大学からカヌーを始めた1年目の選手を対象としたレースがあります。私たちは、毎年この新人の部で全国トップクラスの成績を収めています。ここ2年のインカレの結果を見ても、女子カヤックシングル、男子カナディアンペア、男子カヤックペア2位、女子カナディアンシングル1位など、優秀な成績を収めています。また、今年は2回生以上のペア部門でも、女子カヤック全国3位、女子カナディアン全国2位と優秀な成績を収めました。

現在、部員のほとんど全員が大学からカヌーを始めており、初心者からのスタートながら、強豪の私立大学や、同じ国公立大学の京都大学と対等に勝負しています。

入部すれば大活躍間違いなし！新しいことを始めるのには勇気が要りますが、成長の喜びや面白さがあります。

部員一丸となり、来年度も良い成績を残せるよう、精いっぱい練習に励んでいきます。今後とも応援のほど、よろしくお願い致します。入部お待ちしております！



@KOBECANOEPRINT2022



神戸大学体育会水泳部

農学部 3回生 主将：徳山 元太

部活動

私たち水泳部は競泳面と水球面の2つから構成されています。

共に夏は海洋政策科学部のプールを利用し、水球面は六甲台第一キャンパスのプールも利用して活動しています。

冬は六甲道のスポーツクラブや他大学などの温水施設を借



りて活動しており、部費は年間で1.2万円です。

夏が本格的なシーズンとなっていて、関西国公立選手権、関西学生選手権、全国国公立選手権、全国学生選手権（インカレ）に重きを置いて日々練習しています！

初心者から日本選手権出場者まで幅広い人材が在籍しており、活動は主に午前中のため勉強を含めバイト、遊びと全ての両立が可能です！密度の高い学生生活を送るにはもってこいの部活だと思います。選手、マネージャー共に大歓迎です。

詳しくは神戸大学体育会水泳部の web サイト

<https://kobe-univ-swimteam.jimdofree.com/>

各面の練習日記

競泳面 <https://ameblo.jp/kobe-swimteam/>

水球面 <https://ameblo.jp/waterpolokobe/>

をご覧ください！



海事科学部弓道同好会

部活動

海事科学部弓道同好会は、深江キャンパスにある弓道場で週1～2回活動しています。

弓道は「道」であるため、礼儀を重んじる面もありますが、硬くなりすぎずみんなで楽しく活動しています。

我が同好会は、月に一度程度部内で行われる的あて大会で誰が一番中てられるかを競っており、お互いに切磋琢磨しています。弓道審査会に出場して段位を取得することを目標にしている部員もあり、審査前は少し緊張感をもって練習に励みます。一方で、年末年始には金的と呼ばれる小さい的を狙う遊びを実施するなど楽しんでます。

部員は大学から弓道を始める人も多く、初心者でも気楽に参加できるほか、入部の時期も定めていないため好きなタイミングで参加できます。実際に昨年度（2021年度）入部者は一人を除いて全員が初心者でした！

練習曜日もしっかり決まっておらず、クォーターごとに部員で相談して決められるため、自由度は高いです。気楽に弓道に参加したいという人はぜひ一度見に来てください！



海洋政策科学部 2 回生 主将：木村 鎮

女子カッター部

部活動

我が部は、2年間に及ぶ新型コロナ禍の中、部活動の制限があり新入部員の獲得に努力しましたが思うように集まらず、2022年度は男子端艇部と一緒に新歓を行いました。新入部員2名を加え部員4名では活動しています。練習にはOGの大学院生の手助けをかり、海原に漕ぎだしています。部員不足の為、大会には出場できませんが、過去には数々の優勝経験のある女子カッター部の伝統を守るべく活動しています。部員は皆初心者です、自分の力で海原に漕ぎ出す爽快感は忘れられません。きっと虜になりますよ！



海洋政策科学部 2 回生 主将：花田 ここり



イベントコーナー

新造船「海神丸」見学会開催

海神会事務局 池田 隆宏

海神会は、近畿在住者を中心に 2022 年 3 月就航した新造船「海神丸」の見学会を 2022 年 5 月 21 日に開催致しました。

3 期生（卒 1957 年）から 67 期生（海事 15 期、卒 2022 年）と幅広い年代と近畿はもとより遠くは九州、関東からの 67 名の参加者がありました。

また、学生スタッフ（女子カッター部と男子端艇部）が受付、案内役を務め、OB、OG との交流を図りました。

見学会の開催に当たり、ご協力頂いた学部、藤本船長以下乗組員の方々にお礼申し上げます。



海神丸 満船飾



ブリッジ



花毛布

案内

制服の似合う卒業生

控室アンケート



新造船「海神丸」の見学会を終えて

参加者に母校を訪れ、海神丸の見学会を終えた感想と学生達への思いを綴って頂きました。
尚、紙面の関係上、抜粋して掲載いたしました。

●母校を訪れて・・・

52期（BK13）（2007年卒）

- ・学生時代、艇庫付近にあまり行かなかったが、学生達が変わらず元気そうなので、そのままの雰囲気であってほしいです。

35期（1990年卒）

- ・32年前の卒業になりますが、学生時代の記憶がよみがえりました。

21期（1976年卒）

- ・卒業して46年になるが大きく変わってないように感じた。今は神戸大学の一部となってしまったが商船魂は引き継いでほしい。今後増々の発展を祈っております。

20期（1975年卒）

- ・とても懐かしい、ポンドは昔のままで、大学時代がよみがえりました。
- ・深江駅からの道が懐かしかった。

14期（1969年卒）

- ・懐かしさを覚え、一度にタイムスリップした心境です。

9期（1964年卒）

- ・土曜日のお休みなのに多数の学生さんが案内役を務めて頂いて感謝します。私たちの時の学校名は消えてしまいましたが、グラウンド、ポンドそれに新明和の工場が変わってなくて若い時代を思い出しました。ありがとう！（20年ぶりに訪れて）

- ・昔日を種々思い出しました。

- ①自分が良き環境で学べた事
- ②立派な設備ができたこと
- ③若き人々の学ぶ有様を見ることができた事等々です。

- ・深江の事も、私はいまだに神戸の学校に来ると胸が踊ります。
- ・まず、阪神深江駅がすっかりきれいになったのに驚かされた。

8期（1963年卒）

- ・神戸大学に統合され海洋政策科学部に成ったとは言え、昔の神戸商船大学を思い出しました。先輩・後輩に出会うことができましたので!!

3期（1958年卒）

- ・卒業して63年前の頃を思い出しました。当時は学生数が360名、全寮制で女子は0でした。時代が変わって行く思いです。ありがとう。

●海神丸について・・・

67期（海事15期）（2022年卒業生）

- ・深江丸実習に参加していたので、海神丸が最新設備を搭載しているのがよくわかり、実習面でも研究面でも充実した環境が整ってうらやましい。卒業時、船は完成している姿を見たものの、中は見られなかったのが、貴重な機会をありがとうございました。
- ・2年生の時の実習を思い出し、懐かしい気持ちになりました。

66期（海事14期）（2021年卒）

- ・初めて船内を見て、先代と比べて、設備が最新鋭であり、かつ学生の実習についても考えこまれており衝撃をうけた。

59期（海事7期）（2014年卒）

- ・前の「深江丸」の名残りと最新の船舶の香り感じる事が出来て良かったです。「深江丸」は”練習船”の雰囲気が強かったですが、”研究に使用する”という意味を「海神丸」に感じました。

52期（BK13）（2007年卒）

- ・深江丸と比べてデジタル機器がたいへん増えましたね。時代の要請にマッチした船と言うのでしょうか、でも私は個人的に学生時代に少しだけ実習で乗船した深江丸が好きです。あのディーゼルオイルのおんぶんしたところも、当時の乗組員さんも、紙の海図、船らしい（私のイメージ）、船橋も食堂も本がたくさん並んでいたところも、画面の分厚い機器類も。デジタル機器に強くなることができても、あの海神丸で学生達は船の仕組み、力、体力、根気があること、非常時、災害時の対応を学ぶことができるのでしょうか？と少し心配です。船のことをほぼ分かっていない人間が好き勝手なことを書いてごめんなさい。こんな意見の人間もいるんだな〜ぐらいに思って頂ければ結構です。

33期（1988年卒）

- ・少し商船大の名残りはありますが、別の大学の船ですね。レベルアップしていてうれしいです。

26期（1981年卒）

- ・素晴らしい練習船「海神丸」の御安航を祈念します。

25期（1980年卒）

- ・変化したところ、しなかったところ。ただただ楽しい。

24期（1979年卒）

- ・海神丸と深江丸を比較してみました。海洋研究も兼ねた練習船となつてとても良かったと思います。海上職員・研究者の育成に役立つことを願います。

20期（1975年卒）

- ・海神丸の最新の機器・計器を見学し驚きました。便利になったかもしれませんが、使用方法など勉強する意欲を持ってください、大変だと思います。
- ・機関室の見学を重点的にしたかったです。ただただ船の立派さに感動しました。

17期（1972年卒）

- ・立派な学習施設に感銘、案内役の女性職員が明解な説明をされ、（男性より上手い!!）将来の男女平等社会の実現に期待できました。練習船としての活用機会の増加に期待します。

16期（1971年卒）

- ・設備が機能的で斬新的で感心しました、また居住設備が素晴らしい。実際、運航される時に乗船する機会をつくっていただければありがたいです。ありがとうございました。

14期（1969年卒）

- ・こういう船で半世紀前に実習したかった、素晴らしい船ですね。学生達の将来が楽しみです。

11期（1966年卒）

- ・海神丸は我々現役時と比べ多数の機器が装備されているのに驚きました。但し、現役の頃から常々考えていましたが、ブラック・アウトした時の対応について何か実施されているのでしょうか？

9期（1964年卒）

- ・考えられない船の新しい設備に時代の流れを感じたとともに、現在の若者にふさわしい練習船だと感じました。忘れ

かけていた船の生活を思い出して頂き、今日、自分にとって忘れられない日となりました。ありがとうございました。

- ・初代深江丸より見れば浦島太郎か？
 - ・海神丸の見学を楽しみに来たが、我々学生時代の深江丸とは全く比較にならない近代設備に感動しました。このような立派な練習船で研究、実習できることは本当にうらやましく、立派な学生を育ててほしいと思います。本日（5/21）の見学の様子を9EのZOOM ミーティング（12人出席）で報告したいと思います。本日はありがとうございました。
- 3期（1958年）
- ・すばらしい海神丸を見学出来てとても良かったと思います。案内スタッフの説明申し分なし。三等航海士の対応に元気をもらいました。海神丸の安航を祈ります。

●学生たちに・・・

- 67期（海事15期）（2022年3月卒業生）
- ・また”深江祭”やってほしい
- 25期（A05）（1980年卒）
- ・次回は、開学祭（深江祭）のイベントで海を走っている海神丸の乗船を楽しみにしています。
- 24期（1979年卒）
- ・海の事、気象の事等幅広く勉強して日本を大きくしてください。
- 20期（1975年卒）
- ・学生諸君は、コロナで不自由な学びを強いられたと思いますが、負けずに頑張ってください！
- 9期（1964年卒）
- ・学生諸君が何れの日か船が好きになる事を希望します。



イベントコーナー

伝統を受け継ぎ 献血活動の再開

海神会事務局 池田 隆宏

海神会は、神戸商船大学時代から続く厚生労働大臣より表彰を受けた社会に貢献する伝統ある献血活動を海事科学部学生自治会より引き継ぎ主催することになりました。

新型コロナウイルスの影響で献血活動は一時中断していましたが、2022年4月より対面での授業が始まったことから、深江キャンパス4号館1階ワールドマリンラウンジを会場に兵庫県日本赤十字社献血センターの協力のもと2回開催致しました。

1回目、異常気象が随分と梅雨明けの早く、猛暑の7月21日、参加者53名の内献血者36名と予想を上回りましたが、3時限の授業との兼ね合いで辞退者が多くでて残念でした。2回目、クリスマス寒波襲来、極寒の12月23日、この10

日前に六甲台で神戸大学体育会主催の献血が行われ、その影響か？参加者48名の内献血者は41名と目標に少し達しませんでした。ご協力を頂いた学生、院生と教職員の皆様に感謝いたします。

海神会から参加者に「生協利用券」の配布、日本赤十字社から献血の予約、献血アプリの登録の方に記念品の進呈があり、また協賛頂いた甲南ライオンズ様からパンの提供を受けました。

参加され方からは、こんなに貰えるの！「生協利用券」助かるわー！また参加するー！との声が聞かれました。

2023年も引き続き献血活動を行いますのでご協力をお願い致します。





令和4年度総会報告

2022年度の総会は、新型コロナウイルス感染症の収束が見られず、中止となりましたので、今総会は、「会則12条（会議）①総会②理事会③評議会④委員会を置く。第13条（議決）各会議の議決は出席者の過半数で決める。可否同数の場合は議長の決めるところによる。第14条（総会）総会は本会最高の決議機関であり、通常総会及び臨時総会とし通常総会は毎年1回開催し会長が招集する。」の条文に則り、役員の方々に議案資料を配布し、その審議を頂きました。結果、賛成多数をもちまして総会が成立致しました。

議案

- 第1号議案：役員改選
- 第2号議案：令和3年度決算、令和4年度予算及び監査報告
- 第3号議案：令和4年度事業計画
- 第4号議案：令和4年度海神会基金予算（海神会賞・学術会議学生援助）

令和3年度 海神会 収支決算書

(単位:円 令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

科 目	令和3年度予算額	令和3年度決算額	差 異	備 考
I.収入の部				
1.会費収入	6,800,000	7,134,500	334,500	新入生97名 既卒生108名
2.雑収入	800,050	1,426,046	625,996	寄付者延 108名
当期収入合計(A)	7,600,050	8,560,546	960,496	

II.支出の部				
1.事業費				
(本) 総会、HP、関連団体経費	220,000	124,852	-95,148	
(中) 会誌、支部・記念クラス会支援	2,425,000	1,814,678	-610,322	支部支援 記念クラス会中止
(注) 学部・部活支援、会誌、海神会費	1,030,000	994,744	-35,256	新型コロナウイルス感染緊急
小計(a)	3,675,000	2,934,274	-740,726	

2.管理費				
人件費、会議費等	1,780,050	1,601,920	-178,130	コロナ禍の中、出勤調整
HP、印刷、通信等	2,000,000	1,960,052	-39,948	会員向け 8,400 通
事務費、光熱費、雑費等	145,000	163,818	18,818	
小計(b)	3,925,050	3,725,790	-199,260	

予備費(c)	0	0	0	
--------	---	---	---	--

当期支出合計(B=a+b+c)	7,500,050	6,660,064	-839,986	
-----------------	-----------	-----------	----------	--

当期収支差額(C=A-B)		1,900,482		
---------------	--	-----------	--	--

令和3年度余剰金処理	
令和2年度前期繰越金	6,760,473
令和3年度収支差額	1,900,482
次期繰越金	8,660,955

特別会計（基金）内訳	
定期預金	28,000,000
普通預金	868,418
合 計	28,868,418

※収支決算書並びに予算書に於いて疑問点がありましたら事務局までお問い合わせください。

令和4年度 海神会 収支予算書

(単位:円 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

科 目	令和3年度決算額	令和4年度予算額	差 異	備 考
I.収入の部				
1.会費収入	7,134,500	6,000,000	-1,134,500	新入生の6～7割、既卒生
2.雑収入	1,426,046	1,000,050	-425,996	寄付は例年通りを見込む
当期収入合計(A)	8,560,546	7,000,050	-1,560,496	

II.支出の部				
1.事業費				
(本) 総会、関連団体経費	124,852	1,310,000	1,185,148	120周年基金へ100万円含む
(中) 会誌、支部・記念クラス会支援	1,814,678	2,900,000	1,085,322	会誌 支部支援 記念クラス
(注) 学部・部活支援、会員証	994,744	920,000	-74,744	HCD、卒業・修了式等
小計(a)	2,934,274	5,130,000	2,195,726	

2.管理費				
人件費、会議費等	1,601,920	1,730,000	128,080	
HP、印刷、通信等	1,960,052	1,190,000	-770,052	プリンター買換え等
事務費、光熱費、雑費等	163,818	162,000	-1,818	
小計(b)	3,725,790	3,082,000	-643,790	

予備費(c)	0	200,000	200,000	
--------	---	---------	---------	--

当期支出合計(B=a+b+c)	6,660,064	8,412,000	1,751,936	
-----------------	-----------	-----------	-----------	--

当期収支差額(C=A-B)	1,900,482	-1,411,950		
---------------	-----------	------------	--	--

令和4年度 海神会 基金 予算

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

海神会基金の内、普通預金を活用し学術会議学生援助を行う。

科 目	令和4年度予算	備 考
I.収入の部		
原資	868,418	普通預金
預金利息	1,900	定期・普通利息
収入合計(A)	870,318	
II.支出の部		
学術会議学生援助	500,000	
海神会賞	50,000	
支出合計(B)	550,000	
次期繰越金(A)-(B)	320,318	

令和4年度期末残高見込み	
前年度繰越金	8,660,955
令和4年度収支差額	-1,411,950
次期繰越金見込み	7,249,005

2023年度海神会 総会 開催日時について

新型コロナの変異ウイルスの発生が懸念されますが下記の通り予定します。

日 時：2023年5月27日（土）

理事会：総合学術交流棟1F 梅木Nホール 14:00～15:00
 総 会：総合学術交流棟1F 梅木Yホール 15:00～16:30
 懇親会：総合学術交流棟1F 梅木ホール 16:30～18:00

第17回ホームカミングデイは、2023年10月28日(土)に予定されています。



海神会への寄付一覧

2022年1月1日～2022年12月31日

昨年（2022年）は延べ88名の方から1,120,197円のご寄付を頂きました。
ご寄付頂きました皆様にはご厚意に感謝しお礼申し上げます。

今後とも海神会の活動にご協力をお願いいたします。

1期生～10期生 23名 261,000円 11期生～20期生 37名 396,000円
21期生～30期生 19名 231,197円 31期生以降 9名 232,000円
尚、紙面の都合上、ご芳名は省略致しました。

令和4年度 海神会 役員一覧

役職	改選	期	氏名	役職	改選	期	氏名	役職	改選	期	氏名
理事 会長	再任	N18		理事 監事→理事	再任	N23		監事	再任	E24	
理事 副会長・研究科長	新任	特		理事	再任	N24		監事	新任	T11(38)	
理事 副会長	再任	N17		理事	新任	N24		新任4名 再任44名 計48名			
理事 副会長（関東支部長）	再任	E15		理事	再任	A4(24)		相談役	再任	N13	
理事 副会長（関西支部長）	再任	E16		理事 北海道支部	再任	N25		相談役	再任	N17	
理事	再任	E3		理事	再任	N26		再任2名 計2名			
理事	再任	N7		理事	再任	E26		顧問	再任	特	
理事	再任	E12		理事	再任	N27		顧問	再任	N2	
理事 関東支部事務局	再任	E13		理事	再任	E29		顧問	再任	E8	
理事	再任	E14		理事	再任	A9(29)		顧問	再任	E13	
理事	再任	E14		理事	新任	N31		再任4名 計4名			
理事	再任	E14		理事	再任	N31		退任者			
理事	再任	N17		理事	再任	T7(33)		理事	退任	E5	
理事	再任	N17		理事	新任	N36		理事	退任	N8	
理事	再任	E19		理事	再任	T9(36)		理事 信越支部	退任	N9	
理事 本部事務局長	再任	N20		理事	再任	N37		理事	退任	E10	
理事 関門支部長	再任	N20		理事	再任	BE38		理事	退任	N16	
理事	再任	E20		理事	再任	BT3(41)		相談役	退任	特正	
理事	再任	A1(21)		理事 三重支部	新任	BN4 3		顧問	退任	N1	
理事	再任	E21		理事	再任	W52		顧問	退任	N7	
理事	再任	N21		理事	再任	W04(53)		顧問	退任	N16	
理事	再任	A2(22)		理事	新任	W11(63)		退任者 理事5名 相談役1名 顧問3名 計9名			
理事	再任	N23		監事	再任	E21					

令和4年度 海神会 評議員一覧

期	改選	氏名	期	改選	氏名	期	改選	氏名	期	改選	氏名
N3	再任		N14	再任		N25	再任		T9(36)	再任	
N5	再任		N15	再任		A6(26)	再任		E37	再任	
N7	再任		E16	再任		N28	再任		BN39	再任	
N8	再任		E16	再任		N29	再任		BT1(39)	再任	
E8	再任		E17	再任		E29	再任		BN40	再任	
E8	再任		E17	再任		A9(29)	再任		BN41	再任	
N9	再任		E17	再任		K1(29)	再任		BE41	再任	
E10	再任		N20	再任		N30	再任		BN42	再任	
N11	再任		E20	再任		A12(32)	再任		BE42	再任	
E11	再任		E20	再任		N33	再任		BK9(47)	再任	
E11	再任		A1(21)	再任		N33	再任		BE48	再任	
N12	再任		A2(22)	再任		E33	再任		BK10(48)	再任	
E12	再任		N23	再任		E33	再任		BN49	再任	
N13	再任		N24	再任		N34	再任		O3W(52)	再任	
E13	再任		E25	再任		N34	再任		O4W(53)	再任	
E13	再任		N25	再任		E36	再任		O6W(55)	再任	

物故者 (2022年1月～2022年12月に届出があった方) 謹んで、ご冥福をお祈りいたします。

期	氏名	期	氏名	期	氏名	期	氏名
高等商船29期	鎌田 元夫	高等商船45期	淵之上 寅雄	5期	関屋 芳朗	11期	西川 和良
高等商船37期	八橋 光良	高等商船45期	伊藤 正美	6期	池上 俊文	11期	前田 孝士
高等商船36期	山本 了三	1期	小堀 孝夫	6期	田所 耕一	11期	青崎 泰雄
高等商船40期	志岐 靖	1期	藤井 正史	7期	楠山 和幸	13期	菅原 長英
高等商船41期	森田 豊	2期	岡田 保	7期	上田 俊峰	13期	高野 昌之
高等商船44期	三隅田良吉	2期	岡田 壮一	8期	秋光 正健	13期	伴藤 信俊
高等商船45期	草谷 隆夫	2期	海道 俊雄	8期	岩井 康也	14期	越取 睦雄
高等商船45期	河野昭五郎	3期	竹村 太志	8期	山田 信次	14期	花畑 三郎
高等商船45期	坂本 輝夫	4期	大橋 克己	9期	村上 吉晴	15期	矢野 和史
		5期	青山 玄	11期	竹崎 哲郎	19期	鈴木 隆
						20期	井上 要
						20期	岡部かずひこ
						20期	山下 勇人
						22期	畑浦 潔
						23期	横田 幸信
						27期	荻野 正之
						37期	栗本宏二郎
						42期	中村 環
						院2010年入学	井上 一規

2022年度新任の方々

牧野 秀成准教授	シヨルト グレゴリー ポール特任准教授
森 亮太准教授	
石田 達朗准教授	

2022年度末退職されるの方々

古山 雄一 教授	鎌原 淳三 准教授
田中 直樹 教授	佐久間 舜 特命助教
長谷部正道 教授	サウター アンドリュウ 特任准教授

【海神会だよりの送付について】

経費の都合上、海神会だよりは会員全員にはお届けできていません。会費完納、分納の方には毎年送付していますが、未納者の方には、母校、学部、近々の情報を伝え、会費の納入を促すため一定数を卒業年次単位で順次送付しています。何卒ご理解のほどよろしくお願い致します。

編集後記

コロナ禍の中、自粛生活3年が過ぎようとしています。ようやく各種イベント等が再開されました。在学中の思いそしてこれからに向け、その伝統・文化を受け継ぐ船の魅力と新たな分野への挑戦が感じられました。またどこかで日本船独自の芸術「花毛布」に接する機会があればと期待します。ご寄稿頂いた方々にお礼申し上げます。

卒業生の著作物の紹介（寄贈図書）

～大きな図で見るやさしい

実用ロープ・ワーク～ 成山堂書店

著者：山崎敏男（N 18 期）

著者略歴：

1972 年 9 月 神戸商船大学

（現：神戸大学海洋政策科学部）卒業

1972 年 10 月 東京タンカー（株）入社（2 等航海士）

1977 年 4 月 運輸省（現：国土交通省）入省。宮古島海員
学校の航海科教官の赴任を皮切りに

現：（独）海技教育機

構の海上技術学校、海

上技術短期大学校、

機構本部に勤務。

2011 年 3 月 国立館山海上技術学

校長を以て定年退職。



図書券ゲットチャレンジ！

数独パズル

パズル DE 能力測定

●ルール

- ①空いてるマスに、1 から 9 までの数字を入れます。
- ②タテ列（9 列あります）、ヨコ列（9 列あります）、太線で囲まれた 3 × 3 のブロック（それぞれ 9 マスあるブロックが 9 つあります）のどれにも 1 から 9 までの数字が 1 つは入ります。正解者 20 名の方に図書券 1,000 円分を進呈致します。正解者多数の場合は、抽選と致します。

		2		7			1
		5		6		4	
	1						5
	8				4		6
		1		3		8	①
6			1				2
	4			②			8
		6		2		5	
2			9		8		

応募要領：

- ①と②の数字を記載して下さい。
- 氏名、住所、電話番号を記載の上、メールまたは Fax にて連絡下さい。
メール：almamata@maritime.kobe-u.ac.jp Fax:078-431-6439
- 気に入った記事を記載して下さい。（複数可）
- 会報誌へのご希望（あれば）を記載下さい。

締め切り日：2023 年 3 月 31 日必着



海神会事務局からのお知らせとご案内

2023 年 2 月吉日

同窓会「海神会」を日頃よりご支援賜り、心より感謝申し上げます。

1. 名簿システム PalSyne について

会員様向けに情報提供、利便性の向上の為、マイページを提供しています。海神会 HP からマイページの ID とパスワードの申し込みができますのでご活用下さい。毎年会報送付時、不達が 300 件程度発生し、特に近々の卒業生が目立ち住所確認に苦慮しています。尚 従来通り海神会 HP から住所変更届ができます。

- ・新入生 / 編入生に 7 月頃 会員証と ID とパスワードの手渡し。
- ・卒業式に記念品と共に ID とパスワードを各自に配布。

2. 会費（終身）納入と寄付のお願い（会則により卒業生は皆会員です。）

同窓会の事業としては、学部と学生にはオープンキャンパス、ホームカミングデー、卒業式・修了式等の学内行事、献血活動、深江キャンパス拠点の部活動を支援し、卒業生には、支部活動、ボランティア活動と記念同窓会等を支援し、年一回会誌「海神会だより」を発行し学部の様子を伝えています。

海神会が末永く維持、発展する為、皆さまのご理解賜りご支援をお願いいたします。

- ・会費未納の方は、終身会費 40,000 円（2019 年度より一括納入）
- ・会費分納の方は、5,000 円単位での残額の納付をお願い致します。
- ・会費完納の方は、1,000 円単位のご寄付をお願い致します。

会費納入状況は、封書宛名書きに会費（完納・分納・未納）を記載しています。ご不明な方は、事務局までお問い合わせください。

- * 同封の「払込取扱票」に必要事項を記載の上、郵便局からお振込み下さい。尚、振込手数料の関係上、「払込取扱票」対応の便利な ATM をご利用下さい。

会費完納の方には、会員証を送付します。

3. 2023 年度記念クラス会支援の案内（新型コロナウイルス禍の中、延期ふくむ）

卒業 50 周年、40 周年を迎える卒業生に支援を行っています。

支援対象の期は、50 周年（N.E18 期生 N）40 周年（N.E27 期生 A7 期生 N.E28 期生 A8 期）です。開催される場合は、事務局へご連絡ください。

4. 会誌「海神会だより」に寄稿のお願い

身近な話題、趣味、体験談等 1,000 ～ 1,500 文字寄稿をお願いします。希望される方は事務局にお問い合わせ下さい。

神戸大学海洋政策科学部同窓会海神会

〒658-0022 神戸市東灘区深江南町5-1-1 神戸大学深江キャンパス内

Tel&Fax : 078-431-6439

e-mail : almamata@maritime.kobe-u.ac.jp

ホームページ : <https://www.fukae.org/>

LINE



Instagram



HP